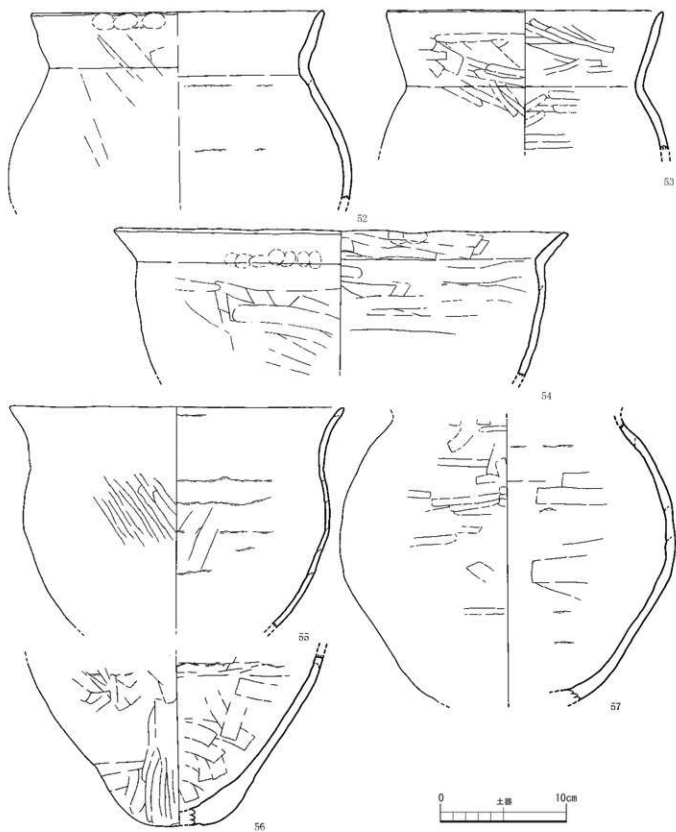
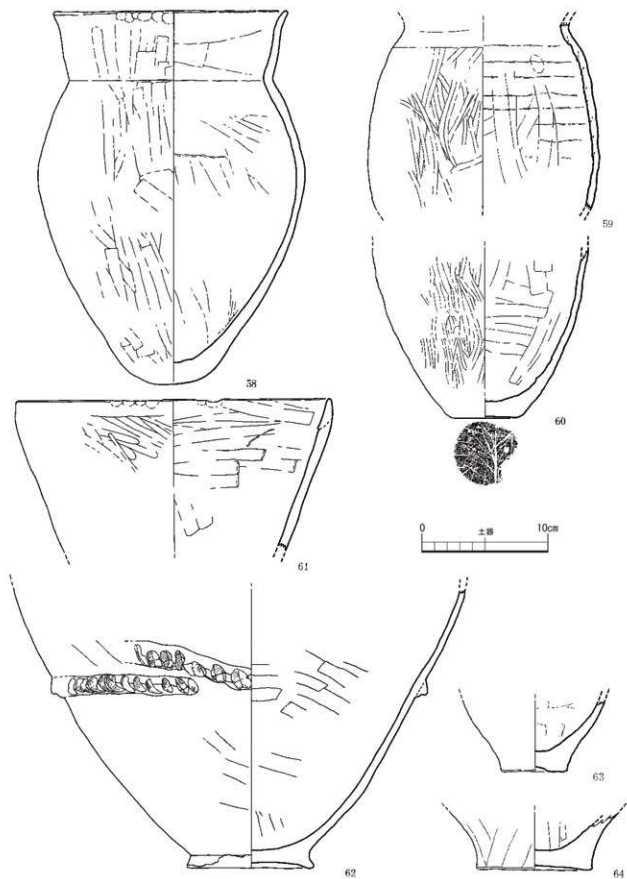


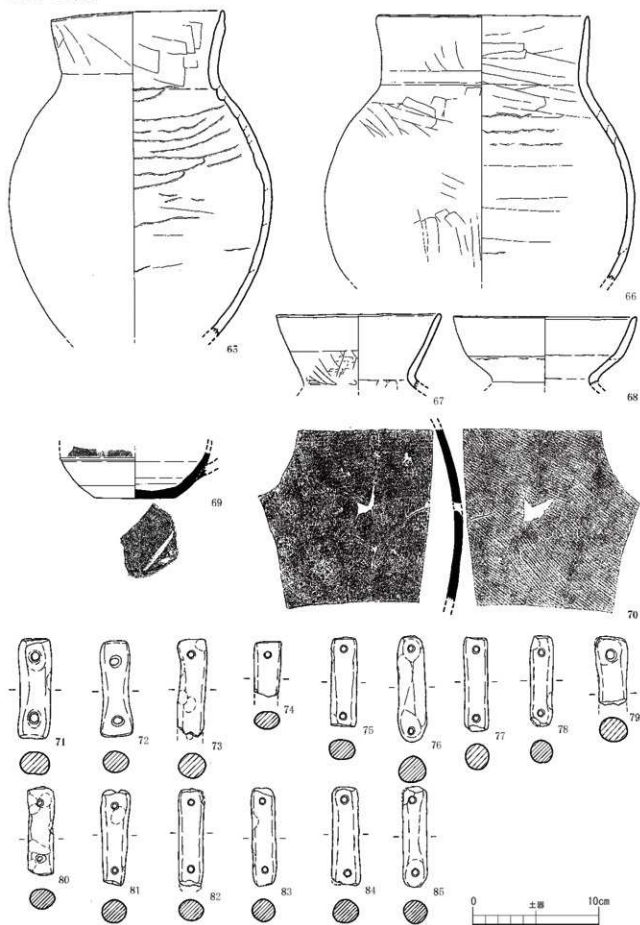
第20図 竪穴建物22出土遺物実測図②



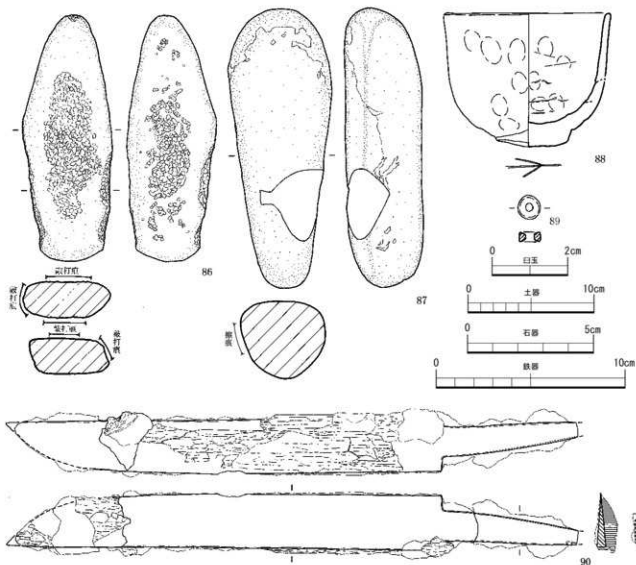
第21圖 竪穴建物22出土遺物実測図③



第22図 竪穴建物22出土遺物実測図④



第23圖 竪穴建物22出土遺物実測図⑤



第24図 竪穴建物22出土遺物実測図⑥、竪穴建物24出土遺物実測図

お、建物南東隅では完形の甕(50)が壁面に接するように出土した。他の遺物と異なる出土状況に注意したい。

21から68は土師器である。21から24は坏で、21、22は平底で体部は外方に開く形態であり、器壁が厚い。23は口縁端部が外方に弱く屈曲している。底部形態から高坏の可能性もある。24の口縁部は外方に向かって短く屈曲する。体部は丸みがあり、全体に薄手である。25から27は鉢である。25は小形で手握ね成形である。26は丸底で口縁部に向かって外方に直線的に開く形態である。27は細長い胴部形態である。28から30は脚付坏である。28、29は短く開く脚部形態で、坏部は内湾しながら外方へ立ち上がっている。30は短く丸みある脚部形態で、坏部は内湾しながらやや直線的に立ち上がっている。31から49は高坏である。31から37は口縁部と受部の境界が明瞭で、脚裾部が明瞭に屈曲する一群である。口縁部はやや外反している。38から46は、口縁部と受部の境界が不明瞭で、脚がハの字状に開く一群である。口縁部はやや外反するもの(38、39)、大きく外反するもの(40～42、44)がある。43は口縁部を打ち欠かれている。47は脚部片であり、筒状の脚部から大きく開く裾部形態で厚みがある。48、49は大型の坏部を持つ一群である。50から64は甕である。50、51は小形長胴甕で、口縁部形態は、直立気味で長く立ち上がる。底部は器厚の厚い丸底である。52から57は大型球形胴甕である。口縁部形態は52、53が緩い「く」の字形で、

54は短く外方に向かって屈曲している。55は緩く外方に向かって開く形態である。胴部は、最大径が上位にあるもの(54)、中位にあるもの(52、53、55～57)がある。58から60は中型球形胴甕である。58は直立気味に立ち上がり、端部が短く屈曲する口縁部形態で、底部は厚みのある丸底である。59、60は同一個体と考えられる。平底で底面には木葉痕が認められる。61、62は中型長胴甕である。胴部は外方に向かって直線的に開く形態で、62は平底に短い脚部が取り付けられており、胴部中位には刻目突帯が貼り付けられている。63、64は甕底部であり、平底で、僅かに上げ底状になっている。65から68は壺である。65は中型長胴壺で、口縁部は緩い「く」の字形である。66は中型球形胴甕で、口縁部は直立気味に立ち上がっている。67、68は口縁部片で、67は「く」の字形、68は複合口縁で、1次口縁と2次口縁の境界は明瞭でない。69、70は須恵器である。69は把手付鉢である。把手部分は貼り付け部分のみ残存している。平底で胴部下位はケズリ調整が施されている。底面には線刻が認められる。70は甕胴部の破片で、外面には平行タタキが認められる。内面の当具痕跡はナデ消されているが、一部に同心円状の当具痕跡が僅かに残存している。図上中央部分には孔があいており、この点を打点に内側から破砕されたものと考えられる。71から85は土錘である。いずれも両端穿孔土錘で、直線的で両端に丸みのあるもの(76、78、82、83、85)、直線的で両端が平坦なもの(73、74、75、77、80、81、84)、両端が幅広になるもの(71、72、79)がある。86、87は敲石である。86全面に敲打痕が認められる。87は敲打痕が明瞭ではない。全面に錆が付着しており、一部厚く付着する箇所もある。金属加工工具と考えられる。

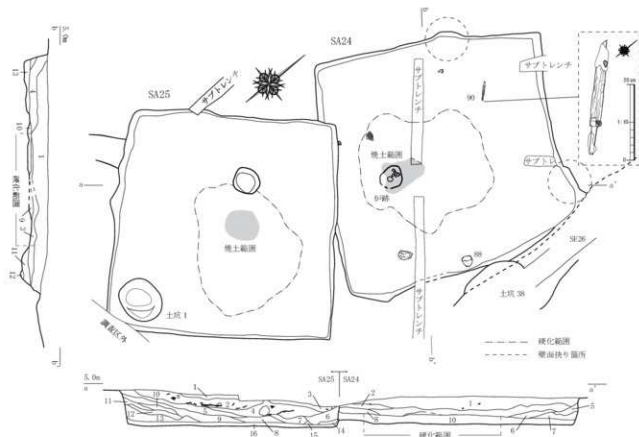
本遺構出土遺物は古墳時代中期後半、5世紀後半(TK23からTK47型式期、今塩屋編年4から5期)に位置付けられ、本遺構も同様であろう。別遺構である土器埋設炉炉体土器(59、60)は、古墳時代後期末、6世紀末(TK43からTK209型式期、今塩屋編年7期)に位置付けられる。

竪穴建物(SA)24(第24～26図) 調査区東側に位置する。方形の竪穴建物である。竪穴建物25、溝状遺構17、溝状遺構26、土坑38に切られている。規模は、長軸3.9m、短軸3.7mである。検出面から0.35m程掘り下げたところで貼床面(10層)を検出した。貼床は地山土と地山砂、暗褐色土ブロックが混じりあった土であるが、東西土層断面では掘方掘削時の地山砂をそのまま床としている箇所もある。床面は後述の炉跡周辺最大2.0mほどの範囲で硬化している部分を確認された。硬化範囲の床面には白色砂質土が顕著に散布していた。この砂質土は地山砂と異なっており、搬入された可能性があるが詳細不明である。検出面から掘方までの最大深は0.46mであった。

建物内遺構は建物中央南側に炉跡1基を検出した。炉跡は最大径0.36m、深さ0.13m程の不整形の掘方を有し、底面の一部が赤化していた。掘方北側の床面には炉からの掻き出し土とみられる、炭化物ブロック含むしまりのない土および焼土がみられた。南側では土器片が壁面に沿うように出土しており、この土器を炉体土器とする土器埋設炉であった可能性があるが、底面の被熱等を考慮すると地床炉の可能性もあり、明瞭でない。床面および掘り方の精査もしたが、柱穴は認められなかった。

また、建物北壁東側と西壁の中央付近の2ヶ所で、壁面のラインが外方へ突出する部分が確認された。本建物の平面形がやや歪であるため、明瞭ではないものの、竪穴建物11同様に、意図的におこなわれた壁面破壊の可能性もある。

遺物は床面から僅かに出土したが、その他、検出面直下から鉄刀(90)が出土している。刃部を北西に向け、刀身を平置きにした状態であった。有機質の遺存状態から鞘に納められた状態であったことがわかる。鉄刀が出土した層は、一時に埋められたような堆積状態で、建物廃絶後の埋め戻



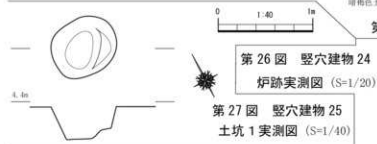
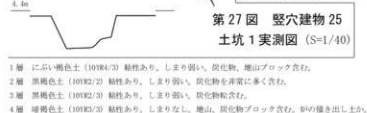
SA25

- 1層 暗褐色土 (101K3/3) 粘性、しまりあり。土器粒、炭化物、白色粒子含む。
- 2層 暗褐色土 (101K3/4) 粘性、しまりあり。土器片、炭化物、軽石粒を非常に多く含む。本層底面に土器の出土が著しい。焼土多く含む。下層ほど顕著になる。
- 3層 褐色土 (101R4/4) 粘性、しまりあり。土器粒、白色粒子、軽石片、地山土含む。
- 4層 黒褐色土 (101K3/4) 粘性、しまりあり。土器片・軽石を多く含む。白色粘土、炭化物含む。焼土含む。
- 5層 黒褐色土 (101R2/3) 粘性高い。しまり強い。土器粒、軽石を少量含む。
- 6層 暗褐色土 (101K3/4) 粘性、しまりあり。白色粒子多く。土器片を少量含む。
- 7層 暗褐色土 (101K3/4) 粘性、しまりあり。白色粒子含む。地山土ブロック含む。
- 8層 黒褐色土 (101R2/3) 粘性、しまりあり。土器片、軽石を含む。
- 9層 暗褐色土 (101R2/3) 粘性、しまりあり。白色粒子、土器片、炭化物層が含む。
- 10層 暗褐色土 (101K3/3) 粘性、しまりあり。白色粒子含む。地山土非常に多く露出する。
- 11層 暗褐色土 (101R2/3) 粘性、しまりあり。白色粒子、炭化物、地山土含む。
- 12層 暗褐色土 (101K3/4) 粘性、しまりあり。炭化物土層、土器粒、白色粒子、地山土を含む。暗褐色土に地山砂質土が混じった土層。土層よりやや明るい。
- 13層 近い黄褐色土 (101R5/4) 粘性、しまりあり。白色粒子、地山土を含む。土器片がごく僅かに含まれる。
- 14層 近い黄褐色土 (101R4/3) 粘性低い。しまりあり。地山土と暗褐色土混じり。
- 15層 近い黄褐色土 (101R4/3) 14層とほぼ同質の土だが、しまりがやや弱い。
- 16層 陥床。詳細は記なし。

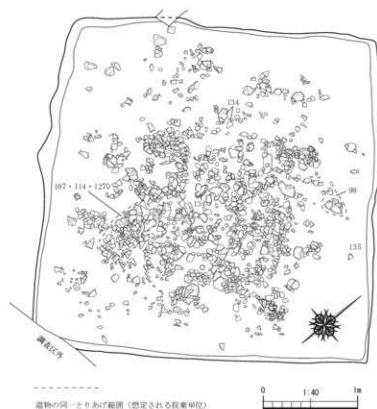
SA24

- 1層 暗褐色土 (101K3/3) 粘性、しまりあり。土器片、炭化物、白色粒子、地山土ブロックを多く含む。
- 2層 暗褐色土 (101K3/4) 粘性、しまりあり。1層と異なるく、色調明るく、土器片も小さい。
- 3層 褐色土 (101R4/4) 粘性、しまりあり。土器粒、白色粒子、軽石片、地山土を含む。
- 4層 褐色土 (101R4/4) 粘性、しまりあり。3層とほぼ同質だが、僅かに色調が暗い。
- 5層 暗褐色土 (101K3/3) 粘性高い。しまりあり。土器粒、炭化物粒多量、白色粒子多量、地山土ブロックを含む。
- 6層 暗褐色土 (101K3/4) 粘性、しまりあり。白色粒子多い。炭化物、軽石片、地山土含む。
- 7層 暗褐色土 (101K3/3) 粘性、しまりあり。白色粒子、地山土含む。
- 8層 暗褐色土 (101K3/3) 粘性、しまりあり。白色粒子、地山土含む。
- 9層 黒褐色土 (101R2/3) 粘性、しまりあり。土器粒、白色粒子、炭を含む。地山土含む。
- 10層 近い黄褐色土 (101R4/3) 粘性低い。しまりあり。地山土と地山砂が混じり合った層。暗褐色土ブロックを含む。
- 11層 近い黄褐色土 (101R4/3) 粘性低い。しまり弱い。暗褐色土と地山砂の混合土。地山土をブロックで含む。
- 12層 褐色土 (101R4/5) 粘性あり。しまりなし。暗褐色土と地山砂の混合土。白色粒子を僅かに含む。
- 13層 近い黄褐色土 (101R5/4) 粘性低い。しまりあり。地山土 (黄) を主体とし、暗褐色土および暗褐色土が混じった層。

第25図 竪穴建物24、25実測図 (S=1/60)

第26図 竪穴建物24  
炉跡実測図 (S=1/20)第27図 竪穴建物25  
土坑1実測図 (S=1/40)

- 1層 近い褐色土 (101R4/3) 粘性あり。しまり弱い。炭化物、地山ブロック含む。
- 2層 黒褐色土 (101R2/3) 粘性あり。しまり弱い。炭化物を非常に多く含む。
- 3層 暗褐色土 (101R2/3) 粘性あり。しまり弱い。炭化物を含む。
- 4層 暗褐色土 (101K3/3) 粘性あり。しまりなし。地山、炭化物ブロック含む。炉の壁き出し土が。



第28図 竪穴建物25遺物出土状況図 (S=1/40)

し土であったと思われる。したがって、本建物廃絶後には、一定程度まで埋め戻した後、鉄刀を埋置し、さらに上部まで埋め戻すという行為がなされていたものと推測される。

以下、遺物について詳細を述べる。鉄刀(90)は短刀で、両刃と思われるが明瞭でない。茎は背側に向かって僅かに屈曲しており、茎尻は欠損している。刀身には鞘材が残存しているが状態が悪く、構造は不明である。また、鞘材の木質表面に鹿角と見られる小片が付着しているが、鞘に関連するものか、他部材が錆着しているものか定かでない。その他の遺物は先述したように、床面から出土した。88は土師器甕である。粗製で厚みある平底である。胴部は直立気味に立ち上がっている。底部底面には疑木葉痕が認められる。89は滑石製白玉である。孔は、両面穿

孔である。

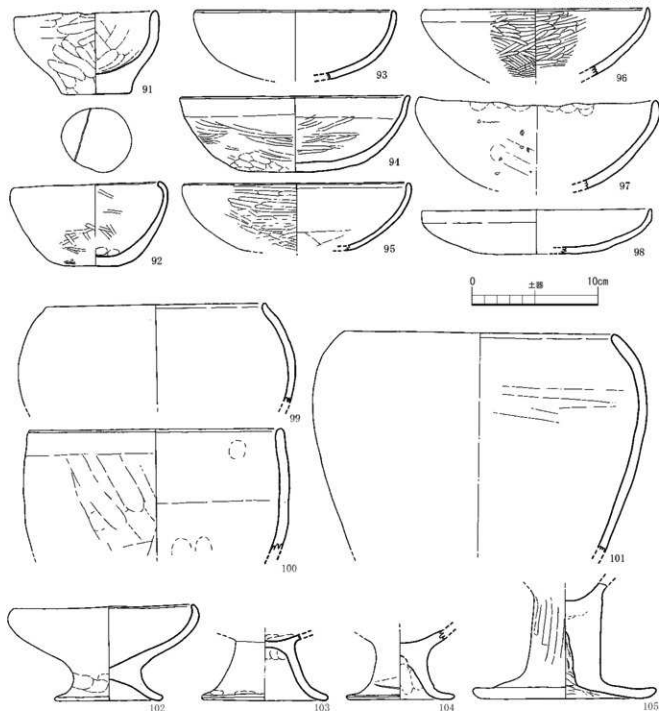
本遺構から出土した遺物のみでは、年代的な根拠にとぼしいが、本建物を切る竪穴建物25が古墳時代後期前半、6世紀前半に位置付けられるので、切り合い関係から、それ以前と位置付けられる。古墳時代後期前半のうちにおさまらう。

竪穴建物(SA)25(第25図、第27～33図) 調査区東側に位置する。方形の竪穴建物である。規模が同様な竪穴建物24を切り、溝状遺構17、溝状遺構12に切られている。建物南隅部の一部のみが調査区外となっているが、ほぼ全体を調査できた。規模は、長軸3.6m、短軸3.5mであり、ほぼ正方形である。検出面から0.51m掘り下げたところで貼床面(16層)を検出した。検出面から掘り下げた最大の深さは0.60m程であった。

建物内遺構は土坑1基、小穴1基が検出された。建物内土坑1は南東隅に配置されている。最大径7.3m程の楕円形で東側が段塚状になっている。深さは0.35mである。建物隅という位置を考慮すると貯蔵穴であった可能性がある。火処については、掘り込みを有する明確な炉は検出されなかった。しかし、建物中央部に焼土の広がり確認された。周囲の床面は2m程の範囲で硬化しており、地床炉として利用されていたものとみられる。小穴は焼土範囲の北側で確認された。最大径0.46m程の不整形円で深さ0.16m程である。建物の主柱穴は掘り込みにおいても確認できなかった。

土層の堆積状況を観察すると、建物南壁側から土が流入している様子がわかる。各土層について詳細に観察すれば、地山土が混じり建物廃絶後の埋戻し土とみられる6層以下、自然堆積土の黒褐色土が流入したとみられる5層、遺物が多量に混じり、遺物廃棄にともなって堆積したとみられる2～4層に区別できる。このことから、本建物は廃絶後に建物南側から一定程度埋め戻されし

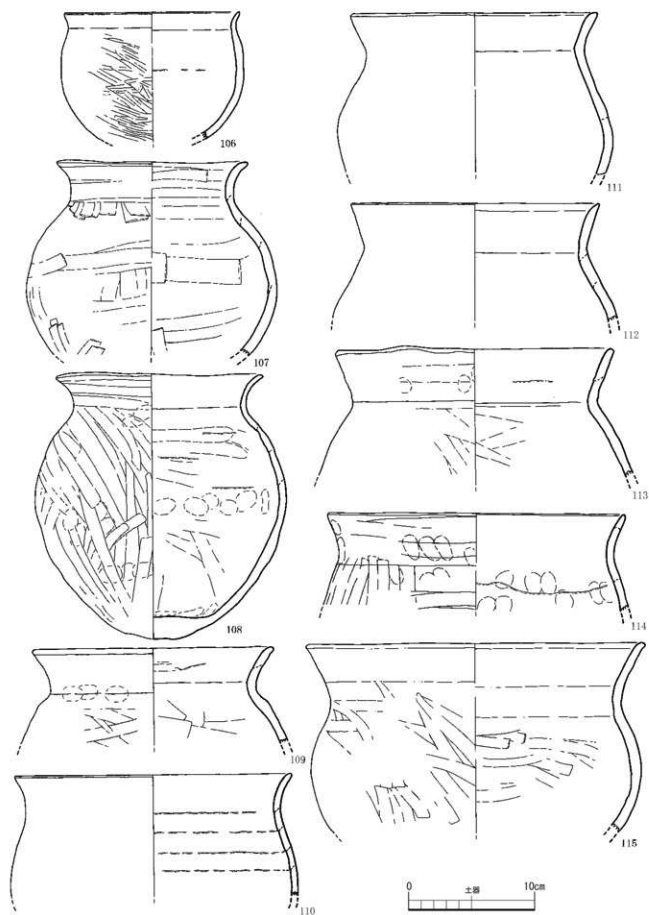




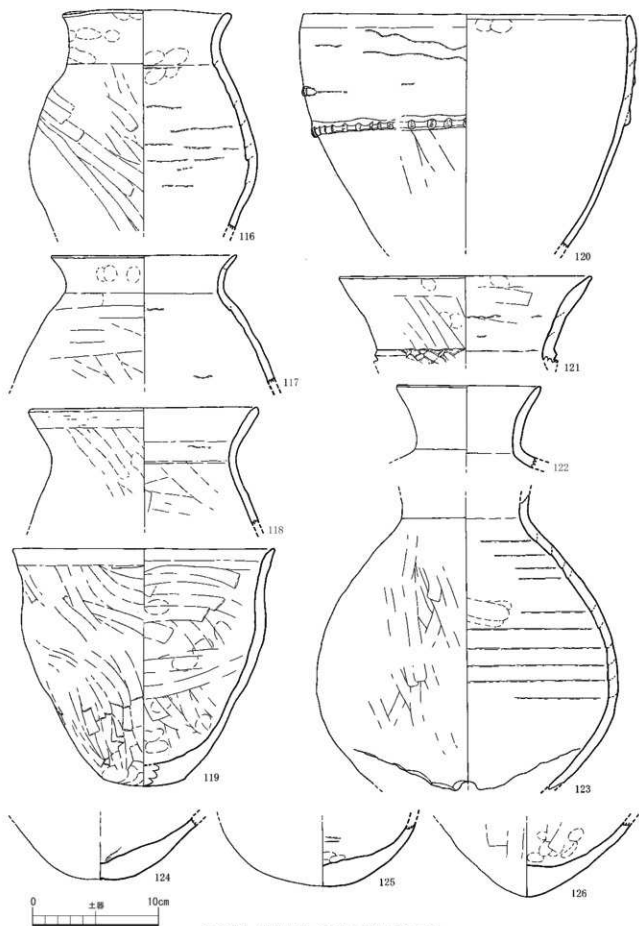
第29図 竪穴建物25出土遺物実測図①

くの時間が経過した後には土器の廃棄場所として利用されたことがうかがえる。2層、および4層は特に多量の土器や軽石が出土している。また両層には炭化物和焼土が含まれており、遺物廃棄の過程で火が用いられていた可能性も考慮される。

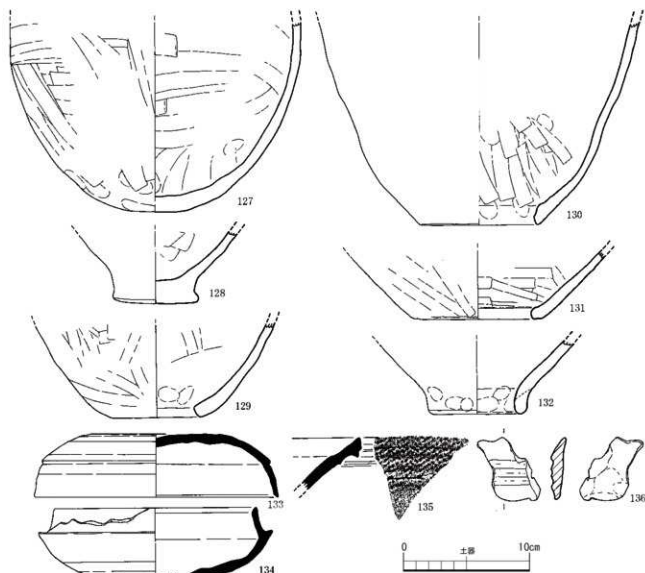
91から132は土器器である。91、92は碗である。91は手捏ねによる成形で、ナデ痕跡が明瞭に残る。厚みある平底の底部で線刻が認められる。92も平底気味の器形で口縁端部は内側に短く屈曲している。93から98は坏である。93から96は丸底あるいは平底気味の底部形態で、ミガキ調整を主体としている。口縁部端部が丸みを帯びるもの(93～95)や尖った形態になるもの(96、97)がある。97は丸底気味の底部形態になると見られる器形である。調整は内外面ともナデ調整で、口縁部は指オサエによる成形痕が明瞭である。やや粗製の作りや器表面の風化のあり方から製塩土器である



第30図 竪穴建物25出土遺物実測図②

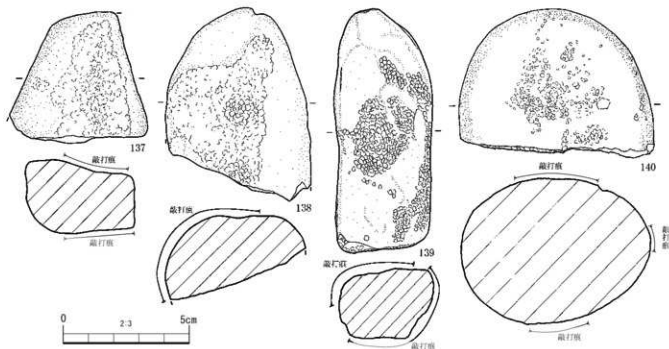


第31図 壁穴建物25出土遺物実測図③



第32図 竪穴建物25出土物実測図④

可能性も考慮される。98は器高が低く扁平である。99から101は鉢である。99は丸みのある器形で口縁端部を僅かにつまみ上げている。100は胴部から直立気味に立ち上がる器形である。101は口縁部が緩やかに内傾し、底部に向かってややすぼまっていく器形である。102から105は高環である。102は塊形の環部に短く開く脚部が付く器形である。103、104は「ハ」の字状に開く脚部片である。105は直線の脚部で、脚部が大きく開く形態である。106から120は甕である。106から109は小球形胴甕である。106は口縁部が短く外方に屈曲している。107から109は緩い「く」の字形口縁で最大径は胴部中位である。108はやや厚みある丸底である。110から115は中型球形胴甕である。口縁部は緩い「く」の字形で、最大径は胴部中位にある。116から119は小形長胴甕である。116から118は頸部のしまりが強く、口縁部は緩く「く」の字状に屈曲する。119は平底気味の丸底で、胴部は緩やかに内湾しながら立ち上がる器形である。120は中型長胴甕である。緩やかに内湾しながら立ち上がる胴部形態で、胴部中位に刻目突帯が貼り付けられている。胎土から搬入品の可能性が高い。121から123は壺である。121、122は口縁部片で、口縁部は外方に向かって緩やかに立ち上がっている。121には刻目突帯が認められる。123は胴部片で胴部下位に最大径を持つ。底部付近は打ち欠かれている。124から128は甕もしくは壺の底部片である。124、125は



第33図 竪穴建物25出土遺物実測図⑤

厚みのある丸底、126は尖底気味の丸底、127は丸底、128は平底である。129から132は甕である。いずれもつつぬけタイプで、蒸気孔の端部形態に多様性がある。133から135は須恵器である。133は环蓋で天井部と口縁部の境界は明瞭であるがやや丸みを帯びている。134は坏身である。口縁部はやや内傾している。口縁部は打ち欠かされている。135は甕である。口縁部片で、外面に櫛描波状文が認められる。136は不明土製品である。外面側に2条の凸線がある。137から140は敲石である。各面に敲打痕跡が認められる。

本遺構から出土した遺物は、古墳時代後期前半、6世紀前半(MT15からTK10型式期、今堀屋編年5から6期)に位置付けられる。本遺構の帰属時期も同様に考えられる。

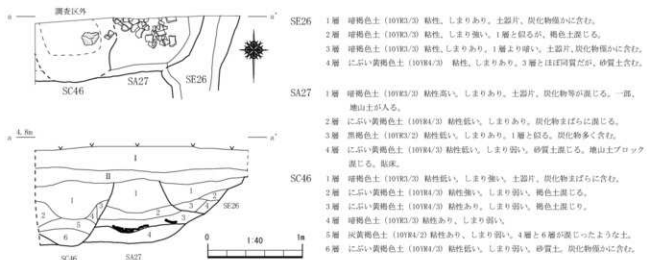
竪穴建物(SA)27(第34～35図)調査区南東隅に位置する。土坑46、溝状遺構26に切られている。調査区南壁に接しているため、調査は北西隅の一部のみとなった。検出面から0.48m程下で貼床面(4層)を検出した。調査できた範囲では建物内遺構は検出できなかった。検出面から掘方までの最大深は0.69mである。

遺物は床面上でまとまって出土した。141から145は土師器である。141は坏で、口縁端部が内側に屈曲している。142は甕口縁部で外方に大きく開く形態である。143は小球形胴甕で口縁部は緩い「く」の字状である。144は中型球形胴甕である。口縁部は直立気味で、緩やかに外反している。145は甕である。球形胴で、口縁部は短く外反する形態である。

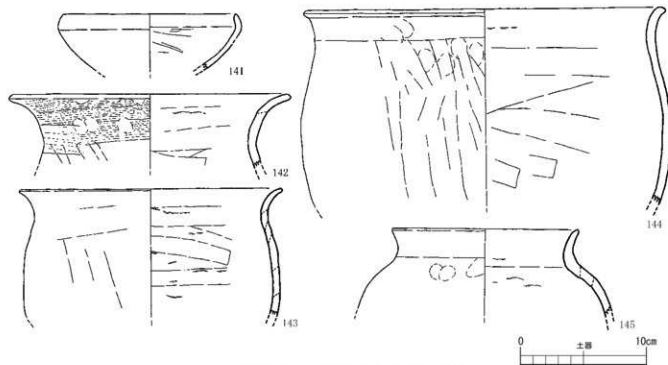
本遺構出土遺物は、古墳時代後期末、6世紀末(TK43からTK209型式期、今堀屋編年7期)に位置付けられる。本遺構の帰属時期も同様に考えられる。

竪穴建物(SA)28(第36～43図)調査区南側に位置する。長方形の竪穴建物である。北側は溝状遺構12に大きく削平されていたが、北西隅角が僅かに残存しており建物北縁を確認できた。南端は調査区外のため確認できなかった。建物の規模は確認部分で長軸6.7m、短軸5.3mである。検出された地床炉の位置を加味すると南北長は7.0m程になる可能性もあり、長方形の大型建物であ

第3節 竪穴建物



第34図 竪穴建物27、土坑46、溝状遺構26実測図 (S=1/40)



第35図 竪穴建物27出土遺物実測図

るといえる。検出面から0.44m程掘り下げたところで貼床面(13層)を検出したが、溝状遺構12で削平されている箇所もある。貼床と考えられる13層は建物東側では確認できず、一部は掘り込んだ地山砂がそのまま床面となっている。検出面から掘り方までの最大深さは0.6m程であった。

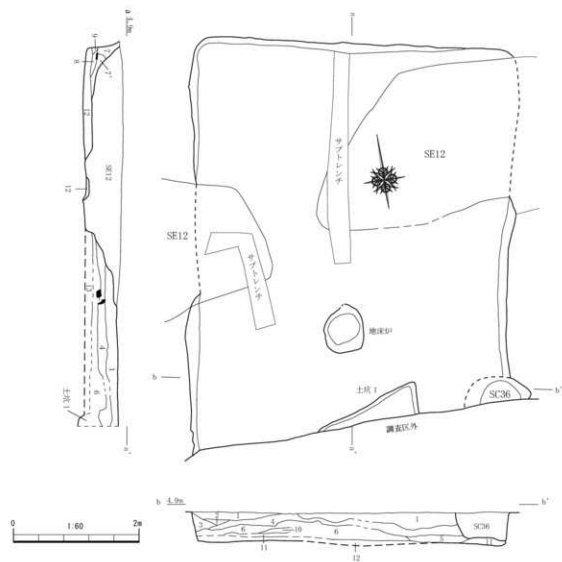
建物内遺構は、地床炉1基、建物内土坑1基を検出した。柱穴は認められなかった。地床炉は、建物のおおよそ中央付近に位置している。最大径0.76m、深さ0.10mの不整形円形で、断面形状はすり鉢状である。側壁東面に焼土が認められたが、床面と埋土中には確認できなかった。掘方南側の壁面で土器片が多く出土したが、掘り込が浅いので土器埋設炉であるとは考えにくい。建物内土坑は長軸1.74m以上の方形で、床面からの深さ0.23cm程である。南側調査区壁面際に検出されたため、規模および用途などの詳細は不明である。遺物は出土しなかった。

遺物は床面から大量の土師器(坏、模倣坏、鉢、高坏、甕、壺)、須恵器(坏蓋、坏身、甕、甕)

石製品、土製品、石器、軽石などが出土した。これらは主に建物南側を中心に出土しているが、溝状遺構 12 によって削平を受けた建物北側にも遺物が存在していた可能性は高い。遺物は分布の状況からいくつかの廃棄単位が確認でき、遺物の接合状況もほぼその廃棄単位内に収まる。接合の結果、竪穴建物 22 と同様に完形になる土器はほとんどなかった。また、遺物が出土した床面には炭化材や被熱痕跡が確認されており、土器の廃棄行為にともなう何らかの火の使用がおこなわれた可能性はある。遺物は、間層を挟まず、地山土や炭化物を含む土（6 層）に置かれて出土した。この 6 層は、状況から人為的な埋め戻し土と考えられることから、上述の土器の廃棄、それにとまう可能性のある火の使用、6 層による埋め戻しが間をおかず一連の過程としてなされたとみられる。

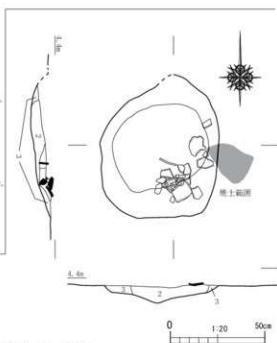
以下、出土した遺物の詳細を述べる。146 から 186 は土師器である。146 は模倣坏である。坏身で、口縁部が内傾している。147 から 154 は坏である。口縁部は緩やかに外方へ開くもの（147、148）、口縁端部が丸く内湾するもの（149～151）、内側へ短く屈曲するもの（152～154）がある。153 は内面にヘラ記号が認められる。155 は針である。小形で直立気味に立ち上がる口縁部形態である。156 から 160 は高坏である。いずれも「ハ」の字状に開く脚部で、156 の坏部形態は坏状である。161 から 173 は甕である。161 から 163、166、168 は小形球形胴甕である。161 から 163 は丸底である。いずれも緩く外反する口縁部形態である。最大径は胴部中位付近にある。164、165、169 は中型球形胴甕である。口縁部は緩やかに外反し、164、165 は胴部中央に、169 は胴下位に最大径を持つ。167 は大型球形胴甕である。口縁部は短く屈曲し、胴部中央に最大径を持つ。170 は大型甕である。短く屈曲する口縁部形態である。171、172 は小形長胴甕である。171 は直立気味に立ち上がる口縁部形態で、底部は厚みある丸底で僅かに上げ底になっている。胴下位に最大径を持つ。172 は胴部中位から口縁まで直立する器形で、口縁端部は面が形成されている。173 は中型長胴甕である。胴部から口縁部まで直立する器形で、口縁端部は面が形成されている。174 から 180 は底部片である。174～179 は甕もしくは甕で、いずれも厚みのある丸底である。180 は甕底部で平底である。181 から 184 は甕である。181、183 は小形球形胴甕で短く屈曲する口縁部形態である。胴部は丸みのある形態で胴部中位に最大径を持つ。182 は小形球形胴甕である。緩やかに外反する口縁部形態である。破片資料ではあるが、184 も 182 と同様の形態であると考えられる。185、186 は甕である。185 は把手部分である。186 は蒸気孔付近の破片でつつぬけタイプの蒸気孔を持ち、胴部は外方に向かって大きく開いている。187 から 193 は須恵器である。187 は坏蓋で天井部と口縁部の境界は余り明瞭でないが、回転ヘラゲズリは口縁部近くまで施されている。188、189 は坏身である。やや内傾した高い口縁部形態で、口縁端部内面に段を持つ。189 は胴部中ほどまで回転ヘラゲズリが施されている。190、191 は甕である。190 は口縁部片で、外面に櫛描波状文が認められる。191 は頸部にカキメ調整が施されている。やや小ぶりで丸みのある胴部形態で、口縁部は故意に打ち欠かされている。外面に自然釉が付着している。192、193 は甕である。192 は口縁部から胴部片で、「く」の字状の口縁部の端部は玉縁状になっている。内面に同心円当具痕が認められる。193 は胴部片で外面に平行タタキ、内面に同心円当具痕が認められる。194 は不明土製品である。棒状の小形品で、手捏ねにより成形されている。両端が僅かに幅広になっている。195 は有孔円板である。滑石製で、2 つの小孔が認められる。欠損しているが、円形であったと判断できる。196 は敲石である。複数箇所に敲打痕跡が認められる。

本遺構から出土した遺物は、古墳時代後期前半、6 世紀前半（MT15 から TK10 型式期、今堀屋編年 5 から 6 期）に位置付けられる。本遺構の帰属時期も同様に考えられる。



- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性低い、しまりあり。地山土、軽石多く含む。炭化物含む。
- 2層 に深い黄褐色土 (10YR4/3) 粘性低い、しまり強い。地山土、軽石、炭化物をまばらに含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性低い、しまり強い。軽石、炭化物をまばらに含む。地山土少量含む。
- 4層 に深い黄褐色土 (10YR4/3) 粘性低い、しまりあり。地山土、軽石、炭化物を多く含む。地山土と黒褐色土との混じり土。
- 5層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、しまり弱い。地山土、炭化物、土器片僅かに含む。
- 6層 暗褐色土 (10YR4/2) 粘性、しまりなし。地山土まばらに、炭化物、土器片を非常に多く含む。
- 7層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性高い、しまり強い。軽石まばらに、土器片、炭化物、焼土含む。
- 8層 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性、しまりなし。軽石粒、炭化物僅かに混じる。地山砂と黒褐色土との混じり土。
- 9層 に深い黄褐色土 (10YR4/3) 粘性、しまりなし。砂質土。赤色鉱(土器片)僅かに含む。
- 10層 褐色土 (10YR4/4) 粘性低い、しまり弱い。地山土ブロックを多く含む。
- 11層 褐色土 (10YR4/4) 粘性高い、しまり強い。10層と同質だが、地山土ブロックをより多く含む。
- 12層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、しまり弱い。地山土をまばらに、土器片を僅かに含む。
- 13層 粘床土。

第 36 図 竪穴建物 28 実測図 (S=1/60)



- 1層 暗褐色土 (10YR4/3) 粘性弱い、しまりあり。炭化物、軽石含む。
- 2層 に深い黄褐色土 (10YR4/3) 粘性低い、しまり弱い。砂質土。灰白色鉱をまばらに混じる。
- 3層 暗褐色土 (10YR4/3) 粘性、しまりあり。粘質土混じり。炭化物、砂質土含む。

第 37 図 竪穴建物 28 地床炉実測図 (S=1/20)



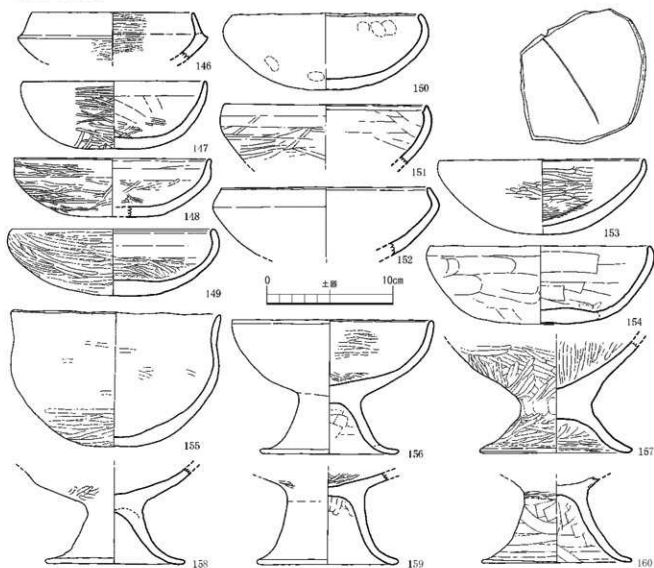


第38図 竪穴建物28遺物出土状況図 (S=1/40)

竪穴建物 (SA) 29 (第44～45図) 調査区中央南側に位置する。建物の北側は溝状遺構12によって切られており、南側の大部分は調査区外に及んでいるため、検出できたのは建物全体の一部に過ぎない。また、竪穴建物34、35と切り合い関係にあるが、掘削後の平面形や遺物の出土状況、調査区壁での土層断面観察の結果、本建物が竪穴建物34、35を切っているものと判断できた。

検出面から0.37m掘り下げたところで貼床面(6層、7層)を検出した。貼床土は、建物の床全面に敷かれているだけでなく、掘方の窪んでいる部分を平坦に均すように敷かれてあった。検出面から掘方までの最大深は0.57mである。建物内遺構は認められなかったが、建物北西隅付近で焼土が検出された。検出された位置が建物隅部付近であることや掘り込みが認められないことから、炉ではなく竪穴建物28と同様な、土器廃棄にともなう火の使用の痕跡である可能性が考慮される。

遺物は、床面直上で概1個体分がまとまって出土したほか、建物北壁沿い床面付近からも土器片



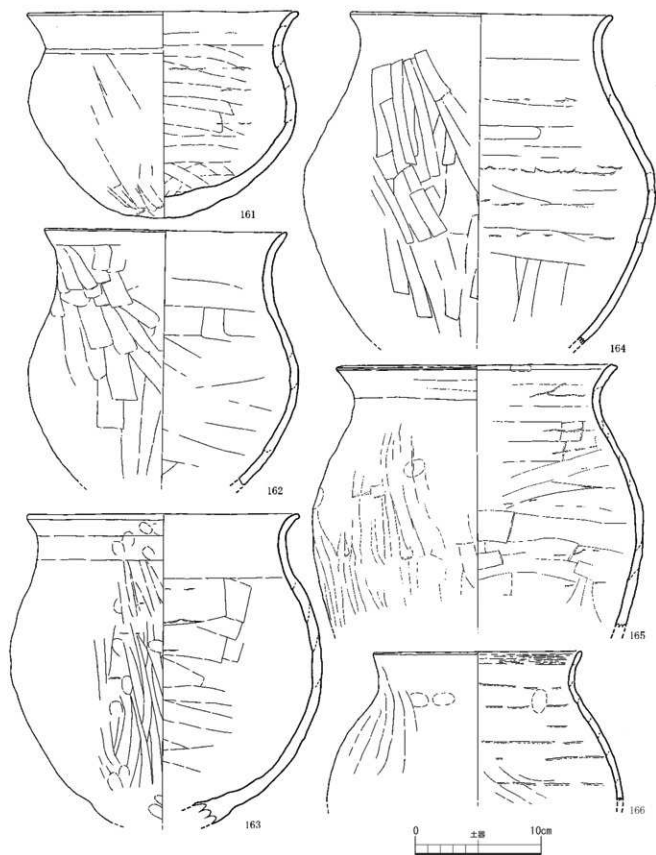
第39図 堅穴建物28出土遺物実測図①

が出土している。197、198は土師器である。197は小形の壺で、口縁部は緩やかに外反する。底部は平底気味の丸底である。198は甌である。中型の球形胴部に蒸気孔が付いた形態で、つつぬけの底部に粘土による棧が渡されたタイプである。把手は欠損のため形態不明である。199は須恵器坏蓋である。天井部と口縁部の境界が不明瞭で、全体に丸みのある形態である。200は敲石である。各所に敲打痕が認められる。201は滑石製の紡錘車である。

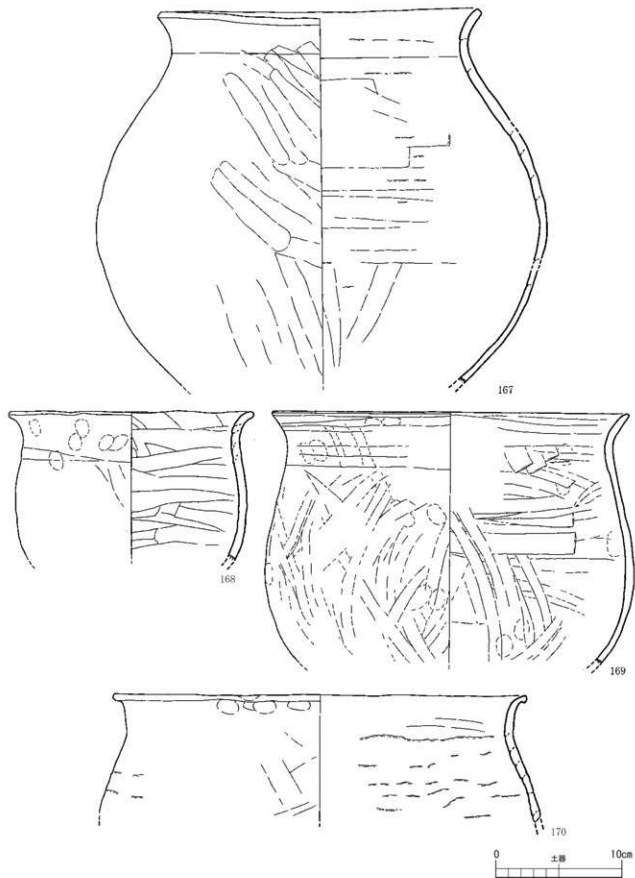
本遺構から出土した遺物は、古墳時代後期前半、6世紀前半(TK10型式期、今塩屋編年6期)に位置付けられる。本遺構の船塚時期も同様に考えられる。

堅穴建物(SA)34・35(第44図) 調査区中央南側に位置する。いずれの建物とも、堅穴建物29と溝状遺構12に切られており、壁面の一部のみが検出された。また、建物の南半は調査区外におよんでいる。両者とも限られた部分が検出されたのみであったが、壁面が垂直であること、床面が平坦であることから堅穴建物と判断した。それぞれの軸方向が異なるため別の建物として報告するが、検出された床面の高さが、いずれも検出面から深さ0.45m程でほぼ同じであることから、1軒の建物であった可能性もある。また、調査できた範囲内では建物内遺構は認められなかった。

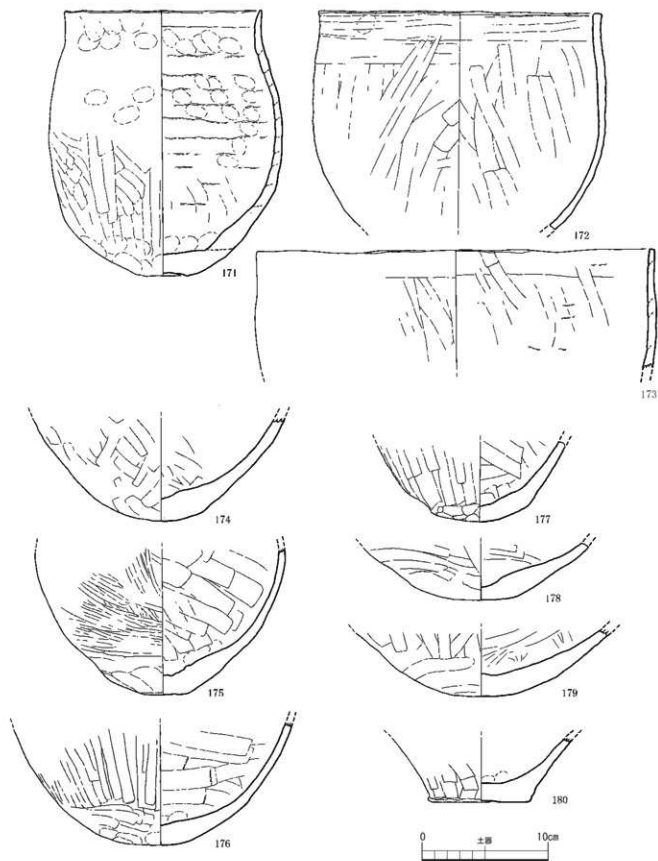
遺物が出土しておらず詳細な時期は不明だが、堅穴建物29に切られていることから、本遺構は



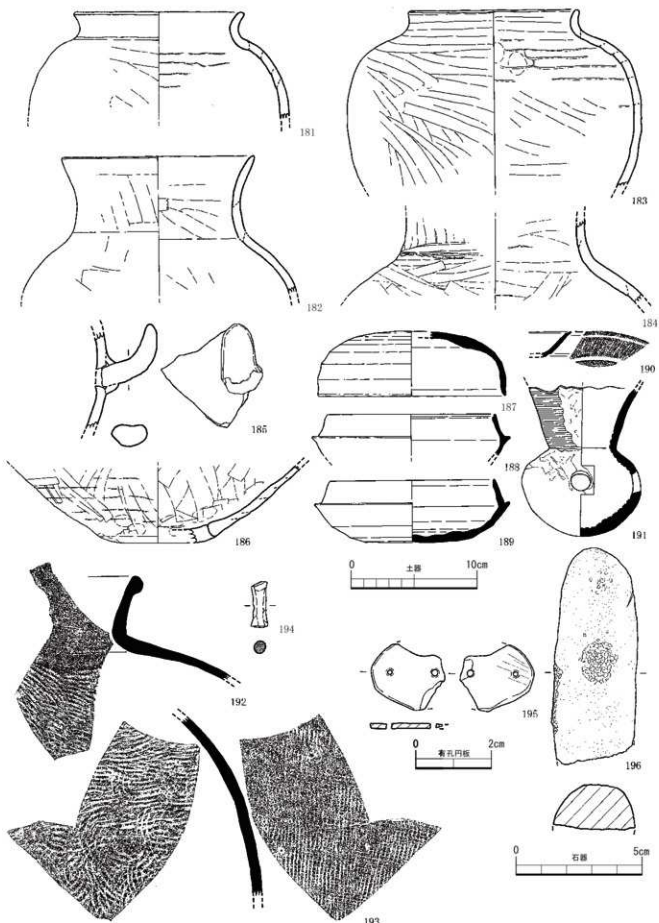
第40図 竪穴建物28出土遺物実測図②



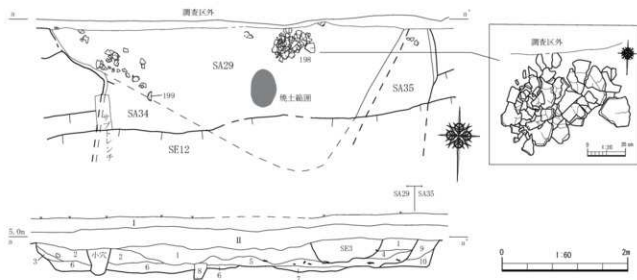
第41圖 竪穴建物28出土遺物実測図③



第42図 竪穴建物28出土遺物実測図④



第43図 竪穴建物28出土遺物実測図⑤



- 1層 暗褐色土 (101K3/4) 粘性、しまりあり、白色粘土、炭化物粒、土器片含む、地山土含む。
- 2層 暗褐色土 (101K3/20) 粘性、しまりあり、1層よりやや明るい、地山土ブロック、黒褐色ブロック含む。
- 3層 暗褐色土 (101K3/4) 粘性、しまりあり、白色粘土、地山土を少量含む。
- 4層 にぶい黄褐色土 (101R4/20) 粘性、しまりなし、地山土ブロック、炭化物を含む。
- 5層 にぶい黄褐色土 (101R4/20) 粘性あり、しまり弱い、3層とほぼ同質だが、しまり強く、土器を多く含む。
- 6層 にぶい黄褐色土 (101R4/20) 粘性弱い、しまり弱い、地山土、地山砂が主体、黒褐色ブロックを多く含む、取戻。
- 7層 灰黄褐色土 (101R4/30) 粘性低い、しまり強い、地山砂が主体、地山土、地山粘質土、黒褐色土粒を多く含む。
- 8層 暗褐色土 (101K3/20) 粘性、しまりあり、地山粘質土を含む、SA29 に伴う小穴。
- 9層 暗褐色土 (101K3/20) 粘性、しまりあり、白色粘土、地山（層位不明）粘土、土器片、炭化物を含む。
- 10層 暗褐色土 (101K3/20) 粘性、しまりあり、白色粘土、少量の炭化物を含む。

第44図 竪穴建物29、34、35実測図 (S=1/60)

古墳時代後期前半以前、6世紀前半以前に位置付けられるが古墳時代の遺構とみられる。

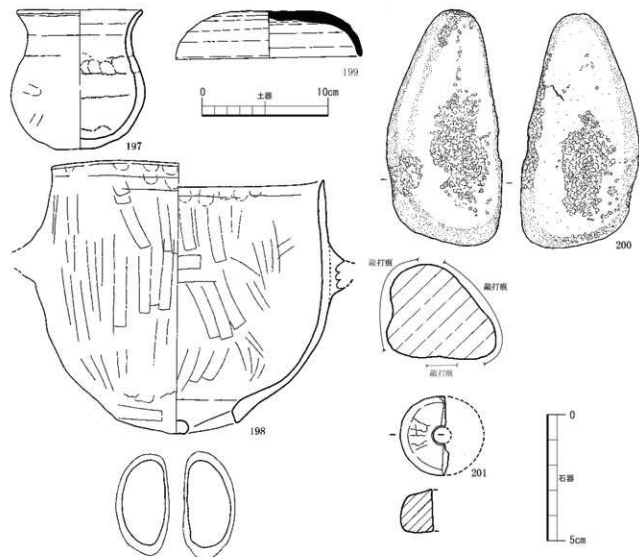
竪穴建物 (SA) 30 (第46図) 調査区南西部に位置する。溝状遺構5、12に大きく切られていること、建物南半が調査区外に及んでいることから、僅かな部分のみを検出したのみである。検出面から0.35m程下で床面が検出された。検出面から掘方までの深さは最大で0.60mである。調査できた範囲内では建物内遺構は認められなかった。

遺物が出土していないため、詳細な時期は不明だが、古墳時代終末期以降の溝状遺構5に切られていること、他の竪穴建物の時期から古墳時代に属する建物と考えられる。

#### 第4節 掘立柱建物

古墳時代と中世の掘立柱建物が検出された。古墳時代に属する掘立柱建物は、掘立柱建物1、9、16、31、33の5棟で、調査区の中央から西に偏在する。軸方向は、掘立柱建物31が東西であるほかはいずれも南北方向である。掘立柱建物9、16、31は柱間に布堀が掘削されている。時期が判然としないうちもあるが、6世紀前半～7世紀初頭までに建てられたものとみられる。中世の掘立柱建物は掘立柱建物4の1棟で軸方向はおおむね南北方向である。

掘立柱建物 (SB) 1 (第47図) 調査区西端に位置する。柱穴6基が検出された。現状で、梁行1間、桁行2間の側柱建物に見えるが、調査区外に柱穴列が延びている総柱の掘立柱建物である可能性も考えられる。柱穴2、4、6の柱筋が悪いこと、柱穴2、6が他の柱穴と比べて浅いことから、これ



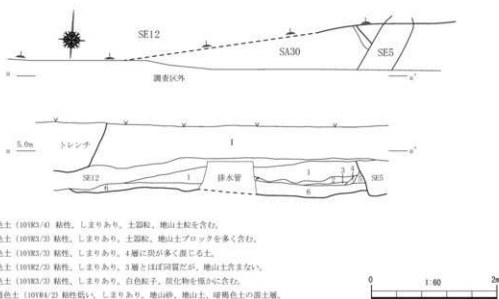
第45図 竪穴建物29出土遺物実測図

らの柱穴は総柱掘立柱建物の中柱である可能性が高いため、本建物は総柱の掘立柱建物であったものと判断できる。柱穴は平面が隅丸長方形の臺壇で底面は平坦に近い。平面及び断面の観察で認められた柱痕跡から推定される柱間隔は北側梁行（柱穴5,6間）で2.07mである。桁行では、柱穴1,3間で2.37m、3,5間で2.67mである。柱穴5,6の土層断面に認められる柱痕跡から、使用された柱の直径は24cm以上であったと想定される。

遺物が出土していないため詳細は不明であるが、建物の軸方向が古墳時代の掘立柱建物である掘立柱建物9や16と同じであることから、本遺構の年代も古墳時代であると判断できよう。

掘立柱建物（SB）9（第48～50図、第56図） 調査区中央付近に位置する。12基の柱穴からなる、梁行2間、桁行3間の総柱掘立柱建物である。梁行3.6m、桁行6.5m、面積23.4㎡の大型建物で、長軸方向はほぼ真北である。土層断面で確認された柱痕跡から推定される柱間隔は、多少のばらつきがあるものの、桁行側でおおよそ2.2m、梁行側で1.8mである。側柱の桁行方向、すなわち柱穴1から10の間、3から12の間には布堀りがある。弧状にやや外湾している部分がある。桁行方向の柱穴ラインの基準であった可能性がある。柱穴の平面形態は、側柱では桁行方向に長い隅丸長方形で、中柱では梁行方向に長い隅丸長方形となっている。ただし、柱穴1,3は不整形である。





第46図 竪穴建物30実測図 (S=1/60)

ること、柱穴11は桁行方向に長い隅丸長形状である点は注目しておく必要がある。それぞれの柱穴は基本的に素堀であるが、柱穴2、3、4は段堀状になっている。また、柱穴7、8、9は、その形状から桁行方向北側に向かって柱穴を二次的に掘削したような状況である。土層断面の観察からは、埋め立て後の再掘削の痕跡は認められず、この二次的な掘削は、建物構築時のものと判断できる。上記、柱穴1、3、11と同様に注目しておくたい。

本建物では、柱穴1、4、6、9、12において土層断面で柱の痕跡を確認できた。この痕跡から、本建物に用いられていた柱の直径は20cm程度であったものと推測される。

本建物の柱穴の掘削と柱の設置については、柱穴の形状や土層断面で確認された柱の位置より推測することが可能である。まず柱穴は、柱穴1、3から掘削された可能性が高い。これは、他の柱穴は梁行あるいは桁行方向に柱間の調整が可能となるよう隅丸長形状であるのに対し、この二つの柱穴はそうした調整を想定しない円形の形状であることから、建物建築の際の基準として掘削されたものと考えられるからである。その後は布堀、側柱の柱穴列を掘削し、ある程度桁行方向の柱間調整をおこなった後、柱が通る位置付近に中柱の柱穴列を掘削したものと見られる。中柱の柱穴は梁行方向の柱間隔を調整するため梁行方向に長い隅丸長形状である。ただし中柱列の中で南端の柱穴11のみは桁行方向の柱間調整のため、桁行方向に長い形態と考えられる。

本建物の桁行方向の柱間隔は、上述のように2.2mを基準としていたとみられるが、柱穴7から9の列の二次的な掘削は柱間調整の際に計画の柱位置が堀方内に収まらなかったための所作であると判断できる。土層断面に再掘削の痕跡が認められないことも、この二次掘削が建物構築時のものであることの証左となる。柱間の調整は建物建築の基準であると思われる柱穴1、3のある建物北側よりなされているようだ。なお、柱の設置については、土層観察の結果、根固め用と充填用としてAからD類の大きく4種類の土が用いられていることが確認できた。柱を設置した後に根固め土であり、搬入土らしい黒褐色粘質土のA類、地山土と暗褐色土を用いたB類の土を柱穴に交互に入れ、布堀の底面付近まで埋めた後に、布堀部と柱穴部へ同時に充填用土である地山土を用いたC類、暗褐色土のD類の土を充填しながら柱を固定していたようである。柱穴4では柱痕跡の底面に薄く粘土が敷かれていた。

遺物は各柱穴の埋土からいずれも破片の状態出土している。202から205は須恵器である。202は环蓋で丸みのある天井部形態である。口縁部との境界は比較的明瞭で、口縁端部は丸く仕上げられている。203は坏身である。小片であるが、口縁端部は短く内傾すると思われる。204は器種不明である。外面に刻目突帯が認められる。205は甕である。口縁部片で、外面に櫛描波状文が認められる。206は土玉である。形状はやや扁平な球形である。

出土した遺物は、古墳時代後期後半、6世紀中頃(MT85型式期、今塩屋編年6期)に位置付けられる。本遺構の帰属時期も同様に考えられる。

掘立柱建物(SB)16(第51～52図、第56図) 調査区西側にあり、掘立柱建物1の東に隣接している。9基の柱穴からなる梁行2間、桁行2間の総柱建物である。軸方向は、南北方向である。東側の側柱列では、柱穴が明瞭で、柱痕跡も確認された。この柱列の観察によれば、桁行方向の柱間間隔は柱穴3と6の間で2.28m、柱穴6と9の間で2.04mで、ややばらつきがある。各柱間には布堀が掘削されているが、柱堀方5と6の間、7と8の間には認められない。布堀の幅や角度、深さにはばらつきがある。桁行方向に長い不整形円形状の柱穴1、2、3、6、9、円形に近い柱穴5、7、8、布堀と幅が同じで明確な柱穴が認められない柱穴4がある。いずれも基本的に素堀りで、底面は平らでなくU字形に近い断面形態である。中柱は側柱に比べて掘り込みが浅い。全的に柱筋は通っているが、柱穴の形態は不整形であり、布堀、柱穴底面の深さもばらつきが多く、他の掘立柱建物と比べて全体的に粗雑な印象である。

また、柱穴1、2、3は、南北に長く、特に柱穴3では柱穴を再掘削したような形状である。土層断面からは柱穴の再掘削痕跡が認められないことから、当初建物構築時に、柱位置を北側に延長した可能性がある。

柱穴1、2、3、6の土層断面に認められる柱痕跡では、使用された柱の直径は26cm以上であったものと推測される。埋土は充填用(A)、根固め用(B)の2種類が確認できた。

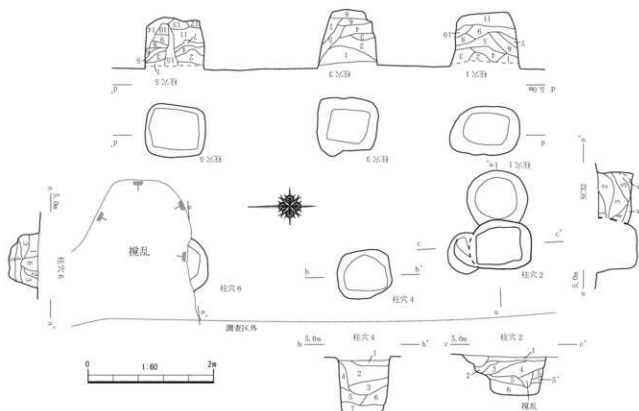
遺物は柱穴2から2点出土している。207は土師器甕である。平底で底面に木葉痕が認められる。208は須恵器环蓋である。天井部と口縁部の境界が不明瞭で口縁端部は丸く仕上げられている。

出土遺物は、小片で不明確だが、古墳時代後期末から終末期、6世紀末から7世紀初頭(TK209からTK217型式期、今塩屋編年7から8期)に位置付けられ、本遺構の帰属時期も同様である。

掘立柱建物(SB)31(第53図、第56図) 調査区南西側に位置する。竪穴建物2、溝状遺構12、現代の配水管に切られている。削平がなければ、本来12基からなる梁行2間、桁行3間の総柱掘立柱建物であった可能性が高い。柱穴3、4の間、柱穴9、10の間にはそれぞれ布堀りが確認された。本建物は竪穴建物2の掘削後に認識したものであるため、本来は別の柱間にも布堀りが存在していた可能性もある。柱間間隔は柱穴3、4間で1.92m、柱穴4、8間で1.56m、柱穴6、10間で1.62mであり、桁行方向の柱間がやや広い。柱筋の通りは良い。柱穴1、5、8、10で確認された柱痕跡から、本建物に使用された柱は直径24cm以上であったと思われる。

遺物は柱穴5から模倣环蓋(209)が出土した。古墳時代後期末、6世紀末(TK43型式期、今塩屋編年7期)に位置付けられ、本遺構の帰属時期も同様とみられる。

掘立柱建物(SB)33(第54図、第56図) 調査区北西部に位置する。柱穴5基が検出され、現状で梁行2間、桁行1間であるが、建物北側が調査区外へ延びているものと考えられる。そのため、

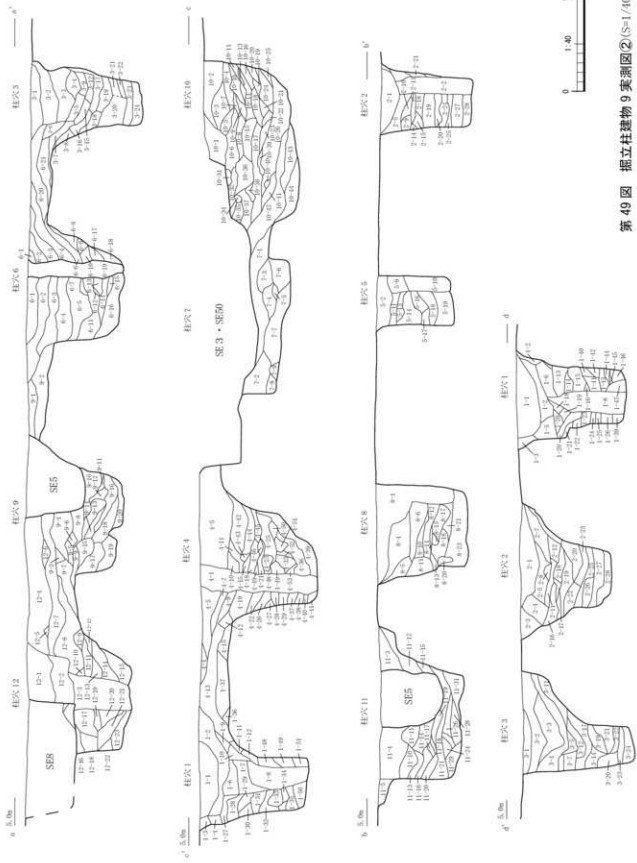


第 47 図 掘立柱建物 1、土坑 32 実測図 (S=1/60)

第 1 表 掘立柱建物 1 土層注記

柱穴	層	色調	備考	
柱穴 1	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘性、しまりあり、灰白色粒まばらに、層和砂層を含む。	
	2	暗褐色 (10YR4/2)	5層と同質だが、より明るく、灰が大い。	
	3	暗褐色 (10YR4/3)	粘性強い、しまり弱い。	
	4	暗褐色 (10YR4/2)	粘性あり、しまり弱い、焼山上ブロックを多く含む。	
	5	暗褐色 (10YR3/4)	粘性、しまりあり、焼山上ブロックを多く含む。	
	6	暗褐色 (10YR3/4)	5層と同質だが、より明るい。	
	7	暗褐色 (10YR3/4)	粘性あり、しまり弱い、焼山上ブロックを含む。	
	8	暗褐色 (10YR4/3)	粘性、しまりあり。	
	9	暗褐色 (10YR3/4)	5層と似てる、焼山上ブロック層を含む。	
	10	暗褐色 (10YR3/4)	5層とほぼ同質だが、より明るい。	
	11	二色い黄褐色 (10YR5/3)	砂質土、焼土に基褐色土が混じる。	
柱穴 2	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘性、しまり弱い、焼山上、焼土粘質土ブロックを含む。	
	2	褐色 (10YR4/4)	粘性強い、しまり弱い、焼山上ブロック層を含む。	
	3	褐色 (10YR4/4)	5層に似るが、色調層が混じる。	
	4	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり弱い、焼山上ブロックまばらに含む。	
	5	暗褐色 (10YR4/4)	粘性あり、しまり弱い、焼山上ブロックを多く含む。	
	6	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり弱い、焼山上ブロックを多く含む。	
	7	暗褐色 (10YR3/4)	粘性、しまり弱い、焼土、焼土粘質土ブロックを含む。	
柱穴 3	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまりなし、焼土、焼土粘質土まばらに含む。	
	2	暗褐色 (10YR3/4)	粘性あり、しまり弱い、焼土、焼土粘質土まばらに含む。	
	3	二色い黄褐色 (10YR5/3)	粘性強い、しまりなし、赤褐色土をまばらに含む。	
	4	暗褐色 (10YR3/4)	粘性あり、しまり弱い、焼土砂を多く含む。	
	5	赤褐色 (10YR3/2)	粘性あり、しまり弱い、焼土上を焼土に覆っている。	
	6	暗褐色 (10YR3/4)	粘性あり、しまり弱い、焼土上を焼土に覆っている。	
	7	褐色 (10YR4/4)	粘性あり、しまり弱い、5層と似る。	
	8	二色い黄褐色 (10YR5/3)	砂質土、焼土に基褐色土が混じる。	
	柱穴 4	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘性、しまり弱い、焼土、焼土粘質土ブロックを含む。
		2	暗褐色 (10YR3/4)	粘性、しまり弱い、焼土上ブロックを多く含む。
		3	褐色 (10YR4/4)	5層と同質だが、より明るい。
4		暗褐色 (10YR3/4)	粘性あり、しまり弱い。	
5		暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い。	
6		暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり弱い、焼土上ブロックを多く含む。	
7		褐色 (10YR4/4)	粘性強い、しまり弱い。	
8		暗褐色 (10YR3/4)	焼土上を焼土にまばらに含む。	
9		暗褐色 (10YR3/4)	焼土粘質土をまばらに含む。	
10		暗褐色 (10YR3/4)	基本的に5層と同質だが、より明るい。	
柱穴 5	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまりあり、焼土砂を含む。	
	2	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり弱い、焼土粘質土まばらに含む。	
	3	暗褐色 (10YR4/3)	粘性強い、しまりなし、焼土上ブロックを含む。	
	4	暗褐色 (10YR3/4)	粘性あり、しまりあり、褐色土を焼土にまばらに含む。	
	5	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり弱い、褐色土を焼土に含む。	
	6	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまりあり、焼土上を焼土にまばらに含む。	
	7	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまりあり、焼土上を焼土に含む。	
	8	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまりなし、焼土、焼土を含む。	
	9	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまりあり、焼土、焼土を含む。	
	10	二色い黄褐色 (10YR5/3)	粘性あり、しまり弱い、焼土砂、焼土を含む。	
柱穴 6	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまりなし、焼土層が混じる、層和。	
	2	暗褐色 (10YR3/4)	粘性、しまりあり、焼土上ブロックを含む。	
	3	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり弱い。	
	4	褐色 (10YR4/4)	粘性あり、しまり弱い、焼土上ブロックを多く含む。	
	5	暗褐色 (10YR3/4)	焼土上ブロックを含む、柱和の可能性。	













本来の建物構造は不明である。柱穴の平面形態は不整円形である。柱穴2、3、4で確認された柱痕跡から、本建物に使用された柱の直径は20cm以上であったと思われる。柱穴2は、他の柱穴に比べて浅いため、東柱と考えられる。

遺物の出土はないが、柱穴の形態、規模、埋土、および建物の軸が掘立柱建物9や16等の古墳時代の掘立柱建物と同一であることから、本遺構は古墳時代に位置付けられると考えられる。

掘立柱建物(SB)4(第55図) 調査区中央に位置する。溝状遺構5、溝状遺構8、竪穴建物10、竪穴建物11を切っている。梁行2間、桁行3間の掘立柱建物である。柱穴は円形で径0.30m未満と小さい。西側柱筋に柱穴にならない小穴が設けられている。

遺物が出土していないため詳細な時期は不明であるが、切り合い関係や埋土、小穴で構成される掘立柱建物であることを踏まえれば、中世以降の建物と考えられる。

#### 第5節 土坑

古墳時代の土坑3基、詳細な時期が不明である土坑5基が検出された。

土坑(SC)18(第57図、第61図) 調査区北東端に位置する。溝状遺構19を切り、南側は溝状遺構13に大きく切られている。平面形は不整楕円形で、残存最大長は1.03m、検出面からの深さは0.19mである。底面は平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がっている。全体の構造が不明であり、出土遺物も少ないため、用途については不明である。

遺物は須恵器把手付鉢(210)が出土した。口縁端部から胴部中位にかけての小片で、口縁下に突帯、その下位には波状節飾文が認められる。小片で詳細は不明だが、古墳時代中期、5世紀代に位置付けられようか。本遺構の構築時期も同様に考えられる。

土坑(SC)20(第57図) 調査区北東端に位置し、溝状遺構19を切る。土坑の一端のみを検出した。遺物は出土していない。埋土の特徴から古代以前のものと考えられるが詳細は不明である。

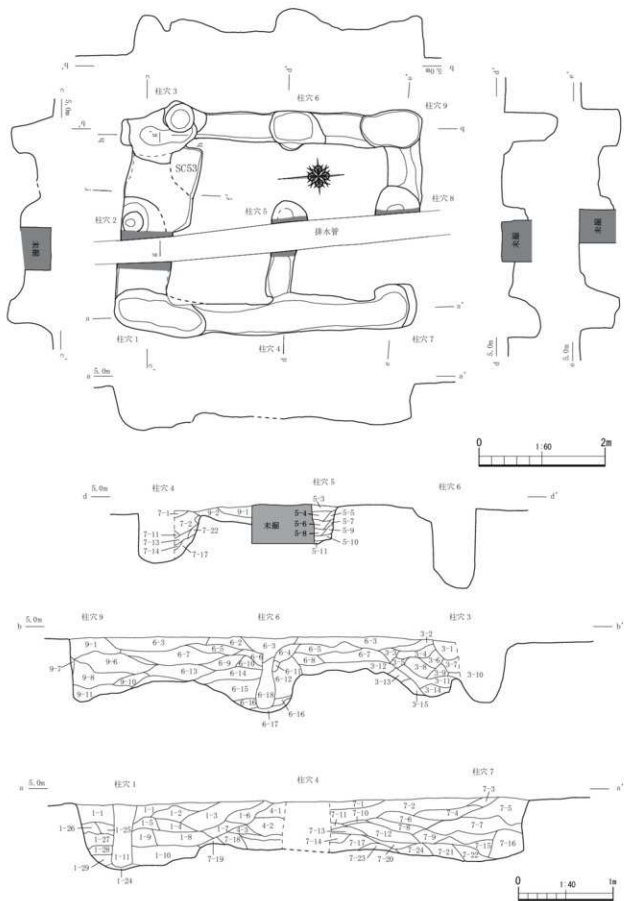
土坑(SC)32(第47図) 調査区西側に位置する。掘立柱建物1の柱穴2に切られている。平面形は円形で、直径は0.97m程度、検出面からの深さは0.60m程度の土坑である。掘立柱建物の柱穴の可能性もあるが、判然としない。西側の調査区外に延びる掘立柱建物の可能性が考えられる。

古墳時代後期前半のものとみられる須恵器小片が出土したこと、古墳時代後期中頃の掘立柱建物1に切られていることから、本遺構は古墳時代後期前半に位置付けられよう。

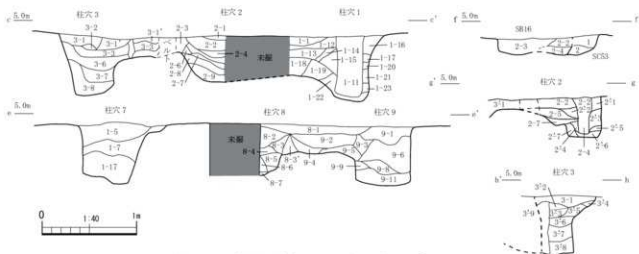
土坑(SC)36(第36図) 調査区東側南壁に位置する。竪穴建物28を切っており、南半は調査区外に及んでいるが、不整楕円形の土坑である。現状での直径は1.07m、検出面からの深さは0.45mである。

古墳時代後期から終末期の土師器片が出土しており、本遺構はこの時期に位置付けられよう。

土坑(SC)37・53(第59図) 調査区西側に位置する。近接する2基の円形土坑である。土坑37は最大径0.71m、検出面からの深さ0.30mである。建物柱穴の可能性もあるが、詳細は不明である。土坑53は最大径0.65m、検出面からの深さは0.14m程とかなり浅い。用途は不明である。



第51圖 掘立柱建物16、土坑53実測圖①(S=1/60, S=1/40)



第52図 掘立柱建物16、土坑53実測図②(S=1/40)

遺物が出土していないため詳細な時期は不明であるが、両者共に埋土の特徴から古墳時代～古代に位置付けられる可能性が高い。

土坑 (SC) 38 (第60図) 調査区東壁付近くに位置する。中心部を溝状遺構26に切られている。長軸0.26m、検出面からの深さ0.44mの不整楕円形の土坑である。北側は段掘り状になっている。用途は不明である。

遺物が出土していないため詳細な時期は不明であるが、切り合い関係から、本遺構は古墳時代の土坑の可能性が高い。

土坑 (SC) 46 (第34図) 調査区南東端にあり、堅穴建物27を切る。円形の土坑で、調査区内で確認できた幅は約0.8m、深さは約0.7mである。調査時に堅穴建物27と同時に掘削したため、明確に本土坑に属する遺物が明確でなく、詳細な時期は不明であるが、堅穴建物27との切り合いから6世紀末以降のものだと判断できる。

#### 第6節 溝状遺構

古墳時代の溝状遺構4条、古墳時代から古代の溝状遺構3条、古代の溝状遺構2条、古代から中世の溝状遺構1条、中世の溝状遺構3条、近世の溝状遺構1条、時期不明の溝状遺構5条を報告する。

溝状遺構 (SE) 3.54 (第62～63図) 溝状遺構3.54は調査区中央を南北方向に平行して延びている。掘削前に2本の溝として認識しながらも同時に掘削したため、一括して報告する。

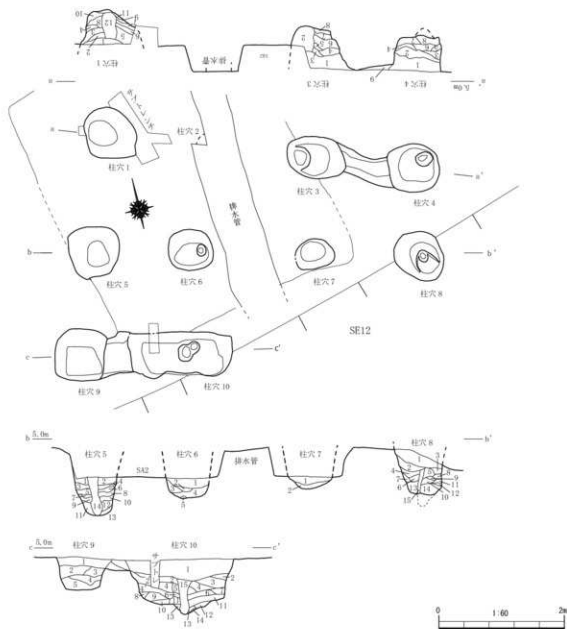
切り合い関係は、溝状遺構3が掘立柱建物9、溝状遺構5を切り、溝状遺構12に切られている。溝状遺構54は掘立柱建物9、溝状遺構8、12を切っている。したがって、両者は平行しながらも、異なる時期の遺構と言える。

溝状遺構3は幅が0.78m以上、深さ0.38m程であり、底面は平坦に近い。溝状遺構54は幅0.73m、深さ0.50m程であり、底面は逆台形に近い。

遺物も一括して報告する。211は土錘である。手捏ねで成形されている。212は陶器である。底部付近の破片で、耳壺あるいは水注と見られる。内外面ともに軸がかかっている。これは溝状遺構54からの出土が確実なものである。213は敲石である。礫石から敲石へ転用されたものと考えられ

第5表 掘立柱建物16土層注記

層 番号	色調	備考	層 番号	色調	備考		
1-1	A	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、軽石層に含む、地山含む。	7-3	-	暗褐色 (10YR3/2)	粘性高い、しまり強い、軽石含む。
1-2	A	暗褐色 (10YR3/4)	粘性高い、しまり強い、軽石含む、地山層小に含む。	7-4	-	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む。
1-3	A	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性強い、軽石層に含む、地山多く含む。	7-5	-	暗褐色 (10YR3/4)	少くとも粘土が、まじり強い。
1-4	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石含む、地山少ない。	7-6	-	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い。
1-5	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、軽石含む、地山層小に含む。4層よりやや粘土多。	7-7	-	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、地山含む。
1-6	A	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、軽石含む、地山層小に含む。	7-8	-	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘性強い、地山含む、砂質土混じり。
1-7	A	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石層小に含む。	7-9	-	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性無し、しまり強い、砂質土。
1-8	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石含む、地山層小に含む。	7-10	-	暗褐色 (10YR3/4)	粘性無し、砂質土。
1-9	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石層小に含む、地山含む。	7-11	-	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性強い、しまり強い、砂質土。
1-10	A	暗褐色 (10YR3/4)	粘性高い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。	7-12	-	暗褐色 (10YR3/2)	粘性無し、軽石多く含む。
1-11	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、軽石含む。	7-13	-	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、軽石含む、地山多く含む。
1-12	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性高い、しまり強い、軽石含む。	7-14	-	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山層小に含む。
1-13	A	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石、しまり強い。	7-15	-	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石含む、地山含む。
1-14	B	暗褐色 (10YR3/4)	軽石、地山含む。	7-16	-	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、軽石多く含む。
1-15	B	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石、地山含む、赤褐色取含む。	7-17	A	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石含む、地山層小に含む。
1-16	B	暗褐色 (10YR3/2)	軽石含む、地山土層小に含む。	7-18	A	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性強い、しまり強い、軽石多く含む、地山含む。
1-17	B	暗褐色 (10YR3/4)	軽石層小に含む。	7-19	A	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	しまり強い、軽石含む、地山多く含む。
1-18	A	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石層小に含む。	7-20	B	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石、地山含む。
1-19	B	暗褐色 (10YR3/4)	軽石層小に含む。	7-21	B	暗褐色 (10YR3/2)	軽石層小に含む。
1-20	B	暗褐色 (10YR3/4)	軽石層小に含む。	7-22	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性高い、しまり非常に強い、軽石、地山層小に含む。
1-21	B	暗褐色 (10YR3/4)	地山土層小に含む、軽石層小に含む。	7-23	A	暗褐色 (10YR3/4)	粘性高い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。
1-22	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、砂質土層小に含む。	7-24	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性高い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。
1-23	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、砂質土層小に含む。	7-25	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、軽石層小に含む。
		1-24～1-29 土層記号なし		7-26	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、地山層小に含む。
2-1	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石含む。	7-27	B	暗褐色 (10YR3/2)	地山土含む、しまりなし。
2-2	B	暗褐色 (10YR3/2)	軽石含む、地山多く含む。	7-28	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、軽石含む。
2-3	A	暗褐色 (10YR3/2)	軽石含む。	7-29	A	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山層小に含む。
2-4	B	暗褐色 (10YR3/2)	軽石含む、地山層小に含む。	7-30	A	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石含む。
2-5	B	暗褐色 (10YR3/4)	軽石層小に含む。	7-31	A	暗褐色 (10YR3/2)	軽石層小に含む。
2-6	B	暗褐色 (10YR3/4)	軽石層小に含む、地山含む。	7-32	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり非常に強い、軽石、地山含む。
2-7	B	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石層小に含む、地山含む。	7-33	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石、地山層小に含む。
2-8	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性高い、しまり強い、軽石層小に含む、地山含む。	7-34	-	-	土層記号なし
2-9	-	-	土層記号なし	7-35	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。
2-10	B	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石層小に含む、地山含む。	7-36	B	暗褐色 (10YR3/4)	軽石層小に含む。
2-11	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山多く含む。	7-37	-	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性無し、しまり無し、黒土多く含む、砂質土。
2-12	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり非常に強い、軽石、地山層小に含む。	7-38	-	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性無し、しまり無し、黒土土層小に含む、砂質土。
2-13	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり非常に強い、軽石、地山層小に含む。	7-39	-	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性無し、しまり無し、黒土土層小に含む、砂質土。
2-14	A	暗褐色 (10YR3/4)	しまり非常に強い、軽石含む、地山層小に含む。	7-40	-	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性無し、しまり無し、黒土土層小に含む、砂質土。
2-15	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり非常に強い。				
2-16	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、軽石層小に含む、地山非常に多く含む。				
2-17	A	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性無し、軽石層小に含む、地山非常に多く含む。				
2-18	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性高い、しまり強い、軽石層小に含む、地山含む。				
2-19	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性無し、軽石層小に含む、地山非常に多く含む。				
2-20	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
2-21	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
2-22	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性高い、しまり非常に強い、軽石、地山層小に含む。				
2-23	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性高い、しまり非常に強い、軽石、地山層小に含む。				
2-24	A	暗褐色 (10YR3/4)	しまり非常に強い、軽石含む、地山層小に含む。				
2-25	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり非常に強い。				
2-26	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、軽石層小に含む、地山層小に含む。				
2-27	C	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石含む、柱筋き取り穴埋土。				
2-28	B	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	軽石、地山含む。				
2-29	B	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	軽石含む、地山多く含む。				
2-30	B	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	しまり強い、軽石、地山含む、まじりやや多い色調。				
3-1	B	暗褐色 (10YR3/2)	しまり非常に強い。				
3-2	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり非常に強い、軽石含む、赤褐色取含む。				
3-3	B	暗褐色 (10YR3/2)	地山層、地山層砂含む、粘結、しまり弱に化し、図に動物糞を含む、赤褐色取含む。				
3-4	B	暗褐色 (10YR3/4)	軽石、土層片を含む、地山がブロック層小に含む。				
3-5	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む。				
3-6	B	暗褐色 (10YR4/4)	粘性強い、軽石含む、地山土多く含む、砂質土、柱筋の隙にまじり。				
3-7	B	暗褐色 (10YR4/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山多く含む、多量にはばね貝殻、赤褐色土の層も含む。				
3-8	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山層小に含む。				
3-9	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山層小に含む。				
3-10	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山層小に含む。				
3-11	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石、地山含む。				
3-12	A	褐色 (10YR4/4)	粘性強い、軽石含む、地山土多く含む、砂質土、柱筋の隙にまじり。				
3-13	B	暗褐色 (10YR4/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山多く含む、多量にはばね貝殻、赤褐色土の層も含む。				
3-14	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山層小に含む。				
3-15	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山層小に含む。				
3-16	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山含む。				
3-17	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、軽石含む。				
3-18	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む。				
3-19	A	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	しまり強い、軽石、しまり強い。				
3-20	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、軽石多く含む、地山含む。				
3-21	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山多く含む。				
3-22	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山多く含む。				
3-23	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山多く含む。				
3-24	A	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	しまり強い、軽石、しまり強い。				
3-25	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、軽石層小に含む。				
3-26	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、軽石層小に含む、地山含む。				
3-27	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山含む。				
3-28	B	暗褐色 (10YR3/2)	しまり強い、軽石層小に含む、地山含む。				
3-29	B	暗褐色 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山含む。				
3-30	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石層小に含む。				
3-31	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山含む。				
3-32	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
3-33	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
3-34	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
3-35	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
3-36	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
3-37	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
3-38	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
3-39	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
3-40	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				
3-41	A	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石層小に含む、土層片含む。				
3-42	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む。				
3-43	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石層小に含む、地山が主体。				
3-44	-	-	土層記号なし				
3-45	-	-	土層記号なし				
3-46	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石含む、地山非常に多く含む。				
3-47	B	暗褐色 (10YR3/4)	軽石含む。				
3-48	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石層小に含む。				
3-49	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、砂質土。				
3-50	B	暗褐色 (10YR3/4)	軽石含む、しまり強い。				
3-51	A	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、軽石層小に含む、地山非常に多く含む。				
3-52	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石、地山含む。				
3-53	A	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性無し、しまり無し、軽石、地山含む。				
3-54	B	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性無し、軽石含む、地山層小に含む。				
3-55	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり非常に強い、軽石含む。				
3-56	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石層小に含む。				
3-57	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石層小に含む。				
3-58	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石含む。				
3-59	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い。				
3-60	B	暗褐色 (10YR3/4)	しまり強い、軽石層小に含む。				
3-61	B	暗褐色 (10YR3/4)	粘性強い、しまり強い、軽石、地山層小に含む。				



第53図 掘立柱建物31実測図 (S=1/60)

る。被熱による変色が認められ、金属加工工具の可能性がある。

212が13世紀代に位置付けられるため、溝状遺構54は中世に位置付けられる。溝状遺構3は遺物の所属が不明瞭であるが、古墳時代終末期以降の溝状遺構5と8を切っていること、中世に位置付けられる溝状遺構12に切られていることから古代から中世の間に取まると考えられる。溝状遺構3と54の平行関係は偶発的ではなく、中世段階に溝状遺構3の再掘削として溝状遺構54がつけられた可能性が考慮される。

溝状遺構 (SE) 5 (第62～65図) 調査区中央付近に位置する。調査区南端から北東方向に延び、調査区中央付近で東側に大きく屈曲する。東端部はSA22付近で取束するとみられる。掘立柱建物4、溝状遺構3、12、42、54に切られており、竪穴建物10、11、22および、掘立柱建物9、溝状遺構8を切っている。幅は0.88mで、深さは0.65m以上である。断面形態は逆台形状である。用途は明確でないが、何らかの区画溝と考えられる。

第6表 掘立柱建物31土層注記

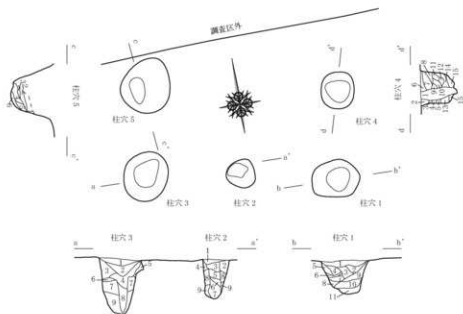
柱穴	層	土層	備考
柱穴 1	1	暗褐色 (10R3/4)	白砂粒、土器類を少量に多く含む。堆山土層上に含む。柱抜きとり穴か。
	2	暗褐色 (10R3/3)	粘土、白色粒を含む。
	3	にぶい黄褐色 (10R4/2)	粘性強い、しまり強い。炭化物を含む。暗褐色と土層土層部分含む。
	4	暗褐色 (10R3/4)	堆山土層を含む。
	5	暗褐色 (10R3/3)	粘土、白色粒を含む。3層と同質土。
	6	暗褐色 (10R3/2)	3層と同質土だが、しまり強い。
	7	暗褐色 (10R3/4)	4層と同質土。堆山土を含む。
	8	暗褐色 (10R3/4)	粘性強い、しまり強い。堆山土を含む。暗褐色と土層土層の層部分含む。
	9	暗褐色 (10R3/4)	粘性強い、しまり強い。堆山土、堆山砂を含む。
	10	暗褐色 (10R3/4)	粘性強い、しまり強い。堆山土を含む。3層と同質土と暗褐色の割合含む。
	11	にぶい黄褐色 (10R4/4)	粘性無し。しまり無し。堆山砂、堆山青砂を含む。
	12	暗褐色 (10R3/4)	1層と近い。暗褐色に堆山土が少量混入。有粒。
柱穴 2	1	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を非常に多く含む。柱抜きとり穴か。
	2	暗褐色 (10R3/4)	灰色土。土器類を少量含む。柱抜きとり穴か。
	3	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を多く含む。
	4	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。堆山土、堆山砂を含む。土器類を多く含む。
	5	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。3層と同質土。
	6	暗褐色 (10R3/2)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。4層と同質土。
	7	暗褐色 (10R3/2)	堆山土層を含む。
	8	暗褐色 (10R3/2)	堆山土、土器類を多く含む。
柱穴 3	1	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を非常に多く含む。柱抜きとり穴か。
	2	暗褐色 (10R3/4)	灰色土。土器類を少量含む。柱抜きとり穴か。
	3	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を多く含む。
	4	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。
	5	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。3層と同質土。
	6	暗褐色 (10R3/2)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。4層と同質土。
	7	暗褐色 (10R3/2)	堆山土層を含む。
	8	暗褐色 (10R3/2)	堆山土、土器類を多く含む。
	9	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を非常に多く含む。
	10	暗褐色 (10R3/4)	灰色土。土器類を少量含む。柱抜きとり穴か。
	11	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を多く含む。
	12	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。
	13	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。3層と同質土。
	14	暗褐色 (10R3/2)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。4層と同質土。
柱穴 4	1	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を非常に多く含む。
	2	茶褐色 (10R2/2)	白色粒、炭化物、堆山土、土器類を含む。
	3	暗褐色 (10R3/2)	灰色土。堆山土層を含む。
	4	暗褐色 (10R3/2)	堆山土層を含む。
	5	暗褐色 (10R3/2)	白色粒、炭化物、土器類を含む。
	6	暗褐色 (10R3/2)	白色粒、炭化物、土器類を含む。6層と同質土を含む。土器類が多量に含む。
	7	暗褐色 (10R3/2)	堆山土層を含む。
	8	茶褐色 (10R2/2)	堆山土を含む。
	9	暗褐色 (10R3/2)	堆山土、堆山砂を含む。
柱穴 5	1	にぶい黄褐色 (10R4/2)	粘性無し。しまり無し。堆山土層に僅かに暗褐色土が混入する層。
	2	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を含む。
	3	暗褐色 (10R3/2)	灰色土。土器類を少量含む。柱抜きとり穴か。
	4	灰黄色 (10R5/2)	粘性無し。しまり無し。堆山土を含む。
	5	にぶい黄褐色 (10R4/2)	粘性無し。しまり無し。堆山土を含む。1層と同質土。
	6	暗褐色 (10R3/2)	3層と同質土。
	7	暗褐色 (10R3/2)	3層と同質土。
	8	にぶい黄褐色 (10R4/2)	粘性無し。しまり無し。堆山土を含む。5層と同質土を含む。柱抜きとり穴か。
	9	にぶい黄褐色 (10R4/2)	粘性無し。しまり無し。堆山土を含む。9層と同質土。
	10	にぶい黄褐色 (10R4/2)	粘性無し。しまり無し。堆山土を含む。9層と同質土。
	11	にぶい黄褐色 (10R4/2)	粘性無し。しまり無し。堆山土を含む。10層と同質土。砂の割合多く、色調が明るい。
	12	暗褐色 (10R3/2)	粘性強い。堆山土を含む。
	13	にぶい黄褐色 (10R4/2)	粘性強い。堆山土を含む。12層より砂の割合多い。
	14	にぶい黄褐色 (10R4/2)	粘性強い。しまり強い。堆山土を非常に多く含む。
柱穴 6	1	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、堆山土、堆山砂、土器類を含む。
	2	暗褐色 (10R3/3)	粘性強い。白色粒、土器類を含む。
	3	暗褐色 (10R3/4)	粘性強い。白色粒、堆山土、土器類を非常に多く含む。
	4	にぶい黄褐色 (10R4/3)	白色粒、堆山土を含む。土器類が少なく含む。
	5	にぶい黄褐色 (10R4/3)	堆山土を含む。
	6	暗褐色 (10R3/4)	炭化物、堆山土、土器類を含む。
	7	にぶい黄褐色 (10R4/2)	粘性強い。しまり強い。堆山土を含む。堆山土に暗褐色土層を混入する。
	8	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、堆山土、土器類を含む。
	9	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、堆山土、土器類を含む。1層と同質土。
	10	暗褐色 (10R3/3)	白色粒、炭化物、堆山土、土器類を含む。1層と同質土。
柱穴 7	1	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を非常に多く含む。柱抜きとり穴か。
	2	暗褐色 (10R3/4)	灰色土。土器類を少量含む。柱抜きとり穴か。
	3	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を多く含む。
	4	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。堆山土、堆山砂を含む。土器類を多く含む。
	5	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。3層と同質土。
	6	暗褐色 (10R3/2)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。4層と同質土。
	7	暗褐色 (10R3/2)	堆山土層を含む。
	8	暗褐色 (10R3/2)	堆山土、土器類を多く含む。
	9	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を非常に多く含む。
	10	暗褐色 (10R3/4)	灰色土。土器類を少量含む。柱抜きとり穴か。
	11	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を多く含む。
	12	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。
	13	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。3層と同質土。
	14	暗褐色 (10R3/2)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。4層と同質土。
柱穴 8	1	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を非常に多く含む。柱抜きとり穴か。
	2	暗褐色 (10R3/4)	灰色土。土器類を少量含む。柱抜きとり穴か。
	3	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を多く含む。
	4	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。堆山土、堆山砂を含む。土器類を多く含む。
	5	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。3層と同質土。
	6	暗褐色 (10R3/2)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。4層と同質土。
	7	暗褐色 (10R3/2)	堆山土層を含む。
	8	暗褐色 (10R3/2)	堆山土、土器類を多く含む。
	9	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を非常に多く含む。
	10	暗褐色 (10R3/4)	灰色土。土器類を少量含む。柱抜きとり穴か。
柱穴 9	1	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を非常に多く含む。柱抜きとり穴か。
	2	暗褐色 (10R3/4)	灰色土。土器類を少量含む。柱抜きとり穴か。
	3	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を多く含む。
	4	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。堆山土、堆山砂を含む。土器類を多く含む。
	5	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。3層と同質土。
	6	暗褐色 (10R3/2)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。4層と同質土。
	7	暗褐色 (10R3/2)	堆山土層を含む。
	8	暗褐色 (10R3/2)	堆山土、土器類を多く含む。
	9	暗褐色 (10R3/4)	白色粒、炭化物、土器類を非常に多く含む。
	10	暗褐色 (10R3/4)	灰色土。土器類を少量含む。柱抜きとり穴か。
	11	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を多く含む。
	12	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。
	13	暗褐色 (10R3/4)	白色粒を非常に多く含む。3層と同質土。
	14	暗褐色 (10R3/2)	白色粒を非常に多く含む。堆山土を含む。土器類を多く含む。4層と同質土。
柱穴 10	1	-	土層注記なし。
	2	-	土層注記なし。
	3	-	土層注記なし。
	4	-	土層注記なし。
	5	-	土層注記なし。

遺物は土師器高坏と敲石が出土した。214は土師器高坏である。脚部片で、下方に向かって直線的に開き、脚裾部は大きく屈曲している。215は敲石である。各面に敲打痕が認められる。

214は、5世紀後半から6世紀前半に位置付けられるが、6世紀末に位置付けられる竅穴建物10を切っているの、遺構の時期を示すものではない。遺構の切り合い関係から、本遺構は古墳時代終末期から古代の間に位置付けておきたい。

溝状遺構 (SE) 8 (第7図、第65図) 調査区中央付近に位置する。調査区南端から北東方向に延び、調査区中央付近で東側に屈曲する。東端部は溝状遺構13に切られており不明である。掘立柱建物4、溝状遺構3、5、12、13、54に切られており、竅穴建物10、11、掘立柱建物9を切っている。幅は1.25m、深さは0.55m以上である。底面は平坦である。用途は明確でないが、溝状遺構5と同様に何らかの区画溝と考えられる。

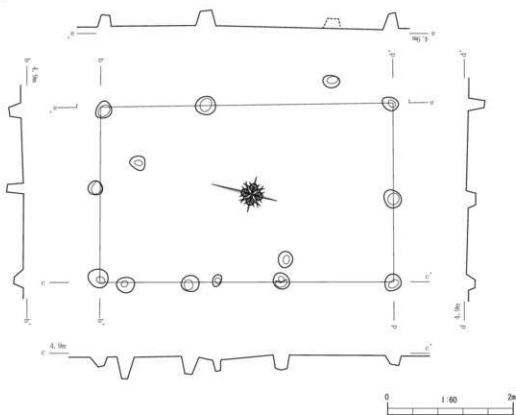
遺物は小片が出土しているが、詳細な時期は不明である。切り合い関係から、本遺構は古墳時代



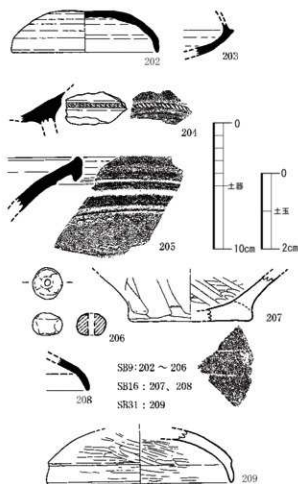
第54図 掘立柱建物33実測図

第7表 掘立柱建物33土層注記

柱穴	層	色調	備考
柱穴1	1	褐色 (10YR4/4)	粘性低い、しまり弱い。湖山上、土器胎膜かを含む。
	2	褐色 (7.5YR4/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	3	褐色 (10YR4/0)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	4	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	5	にぶい黄褐色 (10YR5/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。
	6	暗褐色 (10YR5/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	7	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。
	8	灰褐色 (7.5YR5/2)	粘性低い、しまり弱い。
	9	暗褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	10	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。
	11	黄褐色 (10YR5/6)	粘性高い、しまり強い。
柱穴2	1	褐色 (7.5YR4/4)	粘性低い、しまり弱い。軽石、土器胎膜かを含む。
	2	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。
	3	暗褐色 (10YR5/2)	粘性高い、しまり強い。軽石、土器胎膜かを含む。柱底の可能性。
	4	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	5	暗褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。柱底の可能性。
	6	暗褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。柱底の可能性。
	7	褐色 (10YR4/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。柱底の可能性。
	8	灰褐色 (10YR4/2)	粘性低い、しまり弱い。湖山土壌層に多く含む。
	9	にぶい黄褐色 (10YR5/2)	粘性高い、しまり強い。炭化物等かを含む。
柱穴3	1	暗褐色 (7.5YR5/2)	粘性高い、しまり強い。炭化物、湖山土層かを含む。
	2	暗褐色 (10YR5/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	3	赤褐色 (10YR5/2)	粘性低い、しまり弱い。湖山土層かを含む。
	4	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。柱底さへへの流入土。
	5	黄褐色 (10YR5/6)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	6	赤褐色 (10YR5/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	7	にぶい黄褐色 (10YR5/2)	粘性高い、しまり強い。軽石層かを含む。
	8	赤褐色 (10YR5/2)	粘性高い、しまり強い。湖山上、土器胎膜かを含む。柱底の可能性。
	9	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
柱穴4	1	褐色 (10YR4/4)	粘性高い、しまり強い。湖山上、土器胎膜かを含む。
	2	褐色 (10YR4/0)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	3	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。
	4	暗褐色 (7.5YR5/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	5	褐色 (10YR4/0)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。
	6	暗褐色 (7.5YR5/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	7	暗褐色 (7.5YR5/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	8	褐色 (7.5YR4/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	9	黄褐色 (7.5YR5/6)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。
	10	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性高い、しまり強い。軽石、湖山土層かを含む。
	11	褐色 (10YR4/0)	粘性高い、しまり強い。炭化物、湖山土層かを含む。
	12	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。
	13	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。炭化物等かを含む。湖山土壌層に多く含む。
	14	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。軽石層かを含む。湖山土壌層に多く含む。
	15	暗褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。軽石層かを含む。湖山土壌層に多く含む。
柱穴5	1	暗褐色 (10YR5/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。
	2	褐色 (7.5YR4/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。
	3	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	粘性高い、しまり強い。湖山土層に多く含む。
	4	にぶい黄褐色 (10YR5/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土壌層に多く含む。
	5	褐色 (7.5YR4/2)	粘性高い、しまり強い。軽石層かを含む。
	6	にぶい黄褐色 (10YR4/2)	粘性高い、しまり強い。湖山土層かを含む。



第55図 掘立柱建物4実測図 (S=1/60)



第56図 掘立柱建物出土遺物実測図

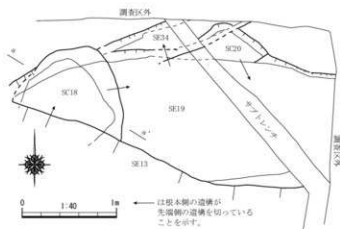
終末期～古代の間に位置付けられる。

溝状遺構 (SE) 12 (第62図、第68図) 調査区南側を東西に横断している。最大幅4.26m、深さ0.96mと規模が大きな溝状遺構である。土層断面や底面の形状を観察すると、2次にわたる掘削がおこなわれていることが確認できた。はじめに掘削されたのは、北側の溝 (第62図 SE12-a) である。再掘削の影響で全幅は不明だが、1.00m程の緩やかなテラスで一旦段が付いた後に平坦に近い底面へと続いている。次に掘削されたのが南側の溝 (第62図 SE12-b) である。SE12-a 同様に幅0.67m程のテラスがあり、平坦な底面へと続いている。溝端部については、西側はいずれも調査区外に延びており、東側は SE12-a は堅穴建物24付近で取束し、SE12-b は調査区外まで延びている。

用途については明確でないが、SE12-b 底面付近がしまりのある土層が堆積しており、通路などに使用されていた可能性が考慮される。

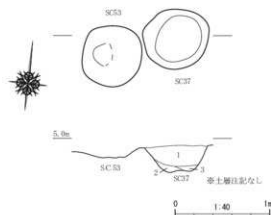
216から218は土師器である。216、217は皿で口縁部が短く立ち上がる浅い器形である。底面は



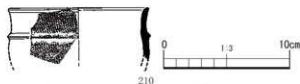


第57図

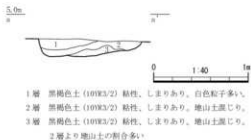
土坑 18、20、溝状遺構 19、34 実測図 (S=1/40)



第59図 土坑 37、53 実測図 (S=1/40)

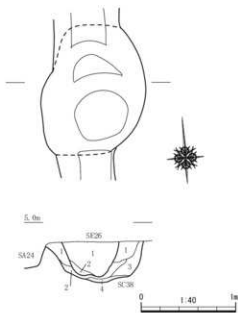


第61図 土坑 18 出土物実測図



第58図 土坑 18 土層断面図 (S=1/40)

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性、しまりあり、白色粒子多い。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性、しまりあり、地山土混じり。
- 3層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性、しまりあり、地山土混じり。  
2層より地山土の割合多い。



第60図 土坑 38、溝状遺構 26 実測図 (S=1/40)

SE26

- 1層 褐色土 (7.5YR4/4) 粘性低い、しまり強い、土器破片を含む。
- 2層 褐色土 (10YR4/6) 粘性低い、しまり強い、軽石を微量含む。

SC38

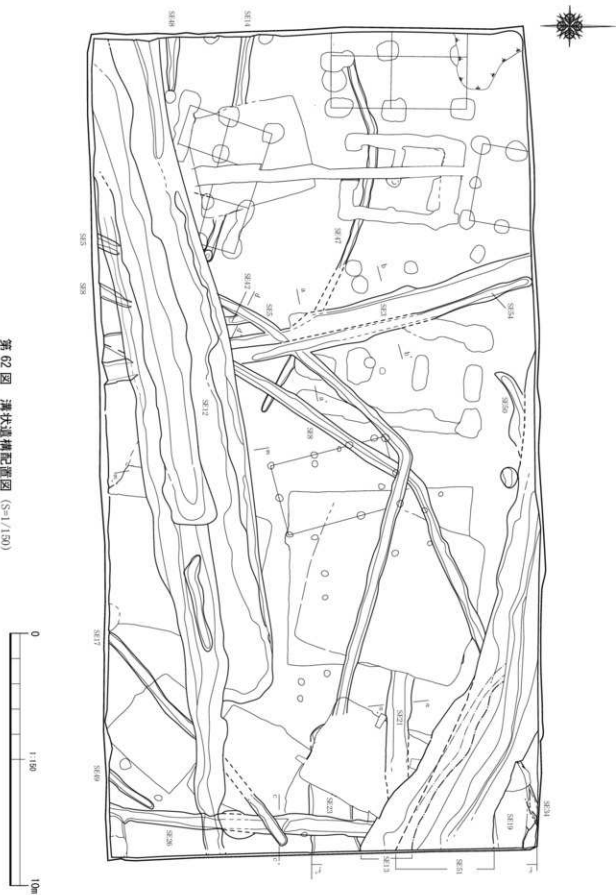
- 1層 暗褐色土 (7.5YR4/3) 粘性、しまりあり、軽石多く含む地山ブロック微量を含む。
- 2層 褐色土 (10YR4/3) 粘性低い、しまり強い、地山ブロック多く含む。
- 3層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性低い、しまり強い、地山ブロック多く含む。
- 4層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性低い、しまり強い、地山土主体。

糸切底である。218は焼塩土器である。手握ね成形で内面には繊維圧痕がある。219は須恵器甕である。口縁部片で、「く」の字状に屈曲しており、口縁端部は丸くおさめられている。220は火打石である。玉髄製で一部に使用痕が認められる。

13世紀代に位置付けられる216、217はSE12-b底面から出土しており、SE12-bは13世紀代に掘削されたと判断できる。古代の遺物(218)も出土しているため、1次掘削であるSE12-aは当該時期まで遡る可能性もあるが、判然としない。

溝状遺構(SE)13(第62図、第67図)調査区北東側に位置する。北側を溝状遺構51に削平されているため詳細は不明であるが、残存幅は1.90m、深さは0.80mである。0.42m程のテラスを有し、テラスから底面にかけて、南側は緩やかに、北側は急角度で立ち上がっている。

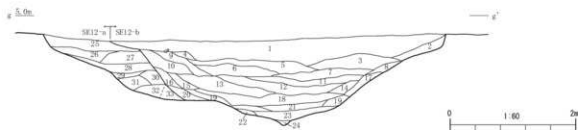
遺物は土師器皿(221)が出土した。口縁部が短く立ち上がる浅い器形で、底面は糸切底である。



第 62 図 溝状遺構配置図 (S=1/150)



## 第6節 溝状遺構



- |   |  |
|---|--|
| <p>1層 黒褐色土(10YR2/3)粘性、しまりあり。灰褐色粒を非常に多い。赤褐色粒含む。</p> <p>2層 暗褐色土(10YR3/3)粘性あり。しまり弱い。灰褐色粒、地山土を僅かに含む。</p> <p>3層 暗褐色土(10YR3/3)粘性、しまりあり。灰褐色を多く、赤褐色粒僅かに含む。</p> <p>4層 暗褐色土(10YR3/3)粘性、しまりあり。地山土を多量に含む。</p> <p>5層 暗褐色土(10YR3/3)粘性、しまりあり。灰白色粒、地山土をまばらに含む。</p> <p>6層 暗褐色土(10YR3/3)粘性あり。しまり強い。灰白色粒をまばらに、地山土をブロックで含む。炭化物含む。赤褐色粒僅かに含む。</p> <p>7層 暗褐色土(10YR3/3)粘性、しまり強い。粘質土。灰白色粒を非常に多く含む。褐色土が混じる。炭化物僅かに含む。</p> <p>8層 褐色土(10YR4/4)粘性低い。しまり弱い。地山砂との混じり土。一部、地山土を混じる。</p> <p>9層 暗褐色土(10YR3/3)粘性、しまりあり。灰白色粒をまばらに。炭化物、赤褐色粒、地山土含む。</p> <p>10層 暗褐色土(10YR3/3)粘性、しまりあり。灰白色粒をまばらに。炭化物、赤褐色粒、地山土含む。</p> <p>11層 暗褐色土(10YR3/3)粘性、しまりあり。灰白色粒を多く含む。土器粒まばらに含む。地山土ブロックで含む。</p> <p>12層 土に黄褐色土(10YR4/3)粘性。しまりあり。11層と似るが、地山少ない。</p> <p>13層 暗褐色土(10YR3/3)粘性、しまりあり。地山土を現状に多く含む。赤褐色粒まばらに含む。</p> <p>14層 暗褐色土(10YR3/3)粘性低い。しまりあり。灰白色粒僅かに含む。赤褐色粒、炭化物僅かに含む。地山砂混じり。</p> <p>15層 暗褐色土(10YR3/3)粘性。しまりあり。地山土ブロック多い。地山砂混じり。</p> <p>16層 暗褐色土(10YR3/3)粘性なし。しまり弱い。地山土、砂の混じり土。</p> <p>17層 土に黄褐色土(10YR4/3)粘性なく。しまり弱い。砂混じり。褐色ブロック含む。</p> | <p>18層 褐色土(10YR4/4)粘性低い。しまり弱い。灰白色粒ほとんど含まず。地山土、赤褐色土が混ざる。硬くしまる部分がある。</p> <p>19層 暗褐色土(10YR3/3)粘性あり。しまり強い。灰白色粒をまばらに。地山土をブロックで含む。炭化物含む。赤褐色粒僅かに含む。20層 土に黄褐色土(10YR4/3)粘性低い。しまりなし。地山砂との混じり土。</p> <p>21層 褐色土(10YR4/4)粘性低い。しまり弱い。地山砂との混じり土。一部、地山土を混じる。</p> <p>22層 褐色土(10YR4/4)粘性低い。粘質土混じり(地山砂に混じる粘質土)。</p> <p>23層 暗褐色土(10YR3/3)粘性強い。しまり強い。褐色土、炭化物、砂混じり。</p> <p>24層 土に黄褐色土(10YR4/3)粘性あり。しまり弱い。地山砂主体。</p> <p>25層 暗褐色土(10YR3/3)粘性、しまりあり。灰白色粒を含む。地山土を混じる。赤褐色粒も僅かに含む。</p> <p>26層 褐色土(10YR4/4)粘性あり。しまり弱い。地山土を多量に含む。灰白色粒ほとんど含まない。炭化物僅かに含む。</p> <p>27層 暗褐色土(10YR3/3)粘性あり。しまり弱い。地山土を含む。灰白色粒を僅かに炭化物を含む。</p> <p>28層 暗褐色土(10YR3/2)粘性、しまりあり。地山土含むが、26層より少ない。</p> <p>29層 暗褐色土(10YR3/2)粘性低い。しまり弱い。地山土を含む。灰白色粒少ない。</p> <p>30層 褐色土(10YR4/4)粘性、しまりあり。地山土主体。25層と似る。</p> <p>31層 暗褐色土(10YR3/2)粘性、しまりあり。地山土ブロック含む。白色粒、地山砂を僅かに含む。</p> <p>32層 暗褐色土(10YR3/3)粘性あり。しまりあり。地山土僅かに含む。地山砂多量に含む。</p> <p>33層 土に黄褐色土(10YR4/3)粘性低い。しまりなし。32層と似るが、より地山砂が主体となる。</p> |
|---|--|

第68図 溝状遺構12土層断面図 (S=1/60)

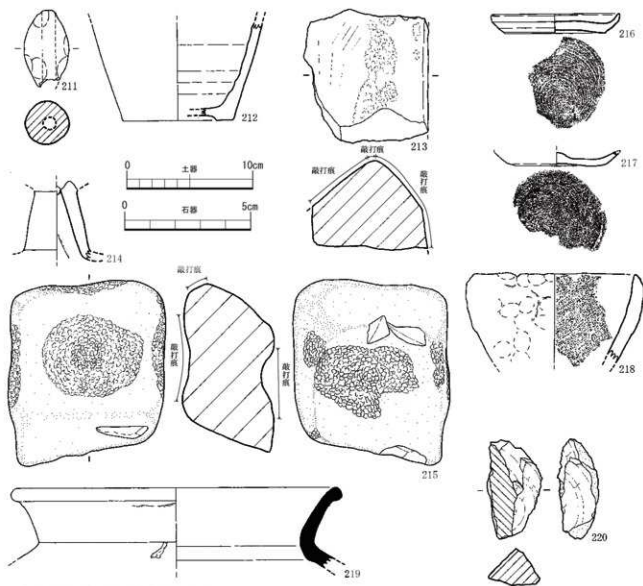
中世でも、13世紀から15世紀代に位置付けられると考えられ、本遺構の時期も同様といえる。

溝状遺構(SE)14(第62図) 調査区西端から南東方向へ延びる。断面V字状の溝で、最大幅0.50m、深さ0.30m以上である。

遺物は図示していないが、6世紀前半に位置付けられる土器小片がある。竪穴建物2との切り合いも加味すると、古墳時代後期前半、6世紀前半の遺構であると考えられる。

溝状遺構(SE)17(第62図、第64図) 調査区南東側から北東方向へ延びる。竪穴建物24、竪穴建物25、溝状遺構26を切り、溝状遺構12に切られている。断面形は逆台形で、幅0.46m、深さ0.20mである。遺物は図示していないが、古代の土鏝や土師器製の破片があり、遺構は当該時期に位置付けられよう。

溝状遺構(SE)19(第57図、第62図、第67図) 調査区北東隅で東西方向に延びる。土坑18、20、溝状遺構13に切られ、溝状遺構34に切られる。幅1.41m、深さ0.43mである。底面は平坦に近い。土坑18に切られていることから、5世紀代以前のもつと判断できるが、古墳時代の土師器小片が出土しているので、本遺構は古墳時代のうちに構築されたものと思われる。



SE3: 211-213, SE5: 214, 215, SE12: 216-220

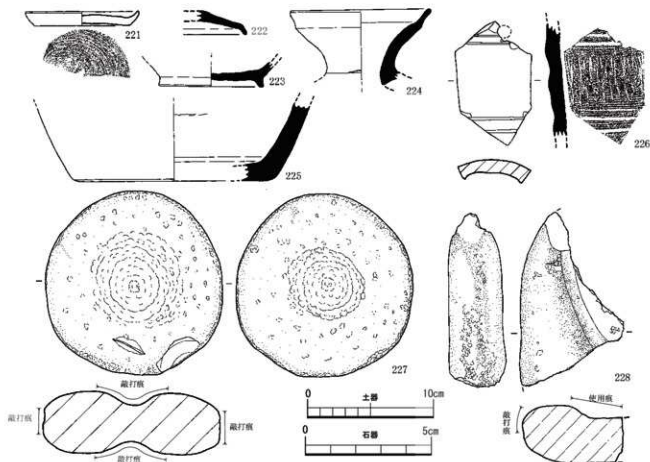
第 69 図 溝状遺構出土遺物実測図①

溝状遺構 (SE) 21 (第 62 図、第 66 図) 調査区東側に位置し、東西に延びる。断面形は緩やかな U 字形の溝で、最大幅 0.96m で深さ 0.32m 以上である。竪穴建物 10 に切られ、竪穴建物 22 を切っていることから、5 世紀後半～6 世紀代に位置付けられる。時期不明の土師器小片が出土した。

溝状遺構 (SE) 23 (第 62 図、第 67 図) 調査区東側に位置し、東西に延びる。遺構の西端は竪穴建物 22 付近で収束している。竪穴建物 22 に切られる。底面が平らな溝で、最大幅 1.97m、深さ 0.36m 以上である。図示していないが、古墳時代中期前半の土師器高坏片が出土しており、本遺構は当該時期のものと考えられる。

溝状遺構 (SE) 26 (第 60 図、第 62 図) 調査区東壁付近を南北方向に縦断している。土坑 38、竪穴建物 27 を切っており、溝状遺構 12、13 に切られている。幅 0.83m、深さ 0.39m で、断面形は緩やかな逆台形である。

遺物は比較的多く出土した。222 から 226 は須恵器である。222 は坏蓋で口縁部は短く外方に屈



第70図 溝状遺構出土遺物実測図②

曲している。223は高台付環である。高台は短く、丸みのある端部形態である。224、225は壺である。224は口縁部片で端部が外側に向かって屈曲している。225は平底の底部片である。224、225は、宮崎市下村窯跡産の長胴壺と見られる。226は筒形器台と考えられる。脚部片で方形透孔2箇所と円形透孔1箇所が認められる。外面には櫛描波状文が認められる。227は敲石である。両面中央および側縁に敲打痕が認められる。228は敲石と考えられる。側面には敲打痕が、上面には凹みが認められ、何らかの作業がおこなわれたと判断できるが詳細は知れない。

出土した遺物は時期幅があり、古墳時代の遺物(226)も含むが、古代(222～225)の遺物が出土していることから、本遺構の時期は古代に位置付けておきたい。

溝状遺構(SE)34(第57図、第62図) 調査区北東隅一部分のみが確認された。北東から南西方向へ延びる溝状遺構である。土坑18、20、溝状遺構19に切られる。残存幅3.30mを測る。遺物は出土していないため詳細な時期は不明であるが、溝状遺構19に切られているため、本遺構は5世紀代以前に位置付けられる。

溝状遺構(SE)42(第65図) 調査区中央やや南側にあり、溝状遺構5を切り、溝状遺構12に切られる。溝の一部が残存していたのみであるが、幅約0.4m、深さ約0.2m、断面形態がU字形の溝状遺構である。

遺物は出土しなかったが、他の遺構との切り合い関係から、古墳時代後期から古代に位置付けられよう。

第8表 堅穴建物、掘立柱建物一覧表

## 堅穴建物

掲載頁	図番号	遺構番号	規模			主軸方向	火跡	備考	時代
			長辺 (m)	短辺 (m)	床面積 (㎡)				
p.6	第4図	堅穴建物2	4.8	4.0	19.20	N17°-W	なし	SE14を切る。SE13に切られる。	古墳
p.9	第6図	堅穴建物10	6.8	6.2	42.16	N18°-E	土留埋設あり	堅穴建物11を切る。SE5、SE8に切られる。北側の平面形は不揃い。	
p.9	第6図	堅穴建物11	7.3	7.0	51.10	N1°-W	なし	ほぼ真北に軸。SE21を切る。堅穴建物10、SE5、SE8に切られる。	
p.14	第15図	堅穴建物22	4.1*	3.7	15.17*	N28°-W	地床あり	SE23を切る。北側をSE13に切られる。	
p.23	第25図	堅穴建物24	3.9	3.7	14.43	N63°-W	地床あり	堅穴建物25に切られる。平面形の歪みが著しい。	
p.23	第25図	堅穴建物25	3.6	3.5	12.60	N47°-W	地床あり	堅穴建物24を切る。	
p.30	第34図	堅穴建物27	1.8*	0.7*	1.26	N84°-E	不明	SE16、SE26に切られる。	
p.32	第36図	堅穴建物28	6.7*	5.3	35.51	N9°-E	地床あり	南側に調査区外。SE12に切られる。	
p.39	第44図	堅穴建物29	5.1+	2.9*	14.79	N26°-E	不明	堅穴建物34、堅穴建物35を切る。	
p.41	第46図	堅穴建物30	3.1+	2.3*	7.13*	N-46°-E	不明	SE12によって大きく削平	
p.39	第44図	堅穴建物34	1.7*	0.8*	1.36*	N6°-E-9	不明	一部の壁のみ残存。堅穴建物29に切られる。堅穴建物34と同一の可能性。	
p.39	第44図	堅穴建物35	1.3*	1.2*	1.56*	N6°-W-9	不明	一部の壁のみ残存。堅穴建物35に切られる。堅穴建物35と同一の可能性。	

## 掘立柱建物

掲載頁	図番号	遺構番号	桁行間×梁行間	桁行間 (m)	梁行間 (m)	床面積 (㎡)	主軸方向	備考	時代
p.43	第47図	掘立柱建物1	2間×(1)間	5.2	3.0*	15.6*	N1°-E	調査区外の南側に桁行が延びる可能性高い。	古墳
p.44	第48図	掘立柱建物9	3間×2間	6.5	3.6	23.4	N5°-E	両側に布版を有する。掘立柱建物。	
p.50	第51図	掘立柱建物16	2間×2間	3.8	2.9	11.0	N4°-E	布版を有する。掘立柱建物。	
p.53	第53図	掘立柱建物31	3間×2間	5.1	3.5	17.9	N103°-W	両側に布版を有する。掘立柱建物。	
p.55	第54図	掘立柱建物33	(1)間×2間	2.5*	3.1	7.7*	N10°-W	調査区外の北側に桁行が延びる可能性高い。	
p.56	第55図	掘立柱建物4	3間×2間	4.7	2.6	13.16	N10°-W		中世

溝状遺構 (SE) 47 (第62図) 調査区西側の掘立柱建物1付近から調査区中央付近まで弧状に延びている。底面が平らな溝状遺構で、最大幅0.40mで深さ0.20m以上である。掘立柱建物9に切られているので、6世紀中頃以前に位置付けられるが、遺物が出土しておらず詳細不明である。

溝状遺構 (SE) 48 (第62図) 調査区西壁から、東西方向に延びている。断面形は逆台形で、幅0.54m、深さ0.40mである。埋土の特徴から古代以前と思われるが、遺物が出土しておらず詳細な時期は不明である。

溝状遺構 (SE) 49 (第62図) 調査区南東端付近に位置し、北東方向に延びている。幅0.24m、深さ0.20mである。溝状遺構17と規模や延びる方向が同じであること、埋土の特徴から古代以前と思われるが、遺物が出土しておらず詳細な時期は不明である。

溝状遺構 (SE) 50 (第62図) 調査区中央北壁側に位置する。溝状遺構13に切られており、遺構の一部が残存しているのみである。先端付近がやや細くなっており。最大幅は2.0mである。断面形態はU字形である。溝状遺構13との切り合い関係から、中世以前の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

溝状遺構 (SE) 51 (第62図、第67図) 調査区中央北壁から、調査区東壁まで南東方向に延びている。溝状遺構13を切る。幅5.16m、深さ1.34mの大きな溝である。北側は狭いテラスを有し、南側も緩やかに落ち込むが、途中からV字状の断面形となる。遺物は掲載していないが、近世の遺物が出土しており、近世以降に位置付けられる。





第10表 出土土器観察表②

調査年度	遺構	遺物	種別	数量(=1+個)			色		調	形状	調査			備考	実測番号		
				合計	破片	器底	外	内			高	内径	口径			厚	
n.17 第22層	埋穴遺物	土師器	高弁	12.0	12.2	14.8	2.576/3	2.577/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	六山ガタナリ食	377	
		土師器	高弁	17.5	—	—	2.576/3	2.576/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	六山ガタナリ食	374	
		土師器	高弁	16.2	16.9	15.9	2.577/3	2.577/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	内面黒化	365	
		土師器	高弁	—	—	—	—	—	良好	ナブ	不明	不明	不明	不明	内面黒化、口縁部打ち欠き、六山ガタナリ食	370	
		土師器	高弁	—	12.6	—	2.577/3	2.577/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	六山ガタナリ食	296	
		土師器	高弁	—	13.0	—	—	—	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	327	
		土師器	高弁	—	11.1	—	2.576/3	2.576/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	322	
		土師器	高弁	—	11.3	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	326	
		土師器	高弁	25.2	—	—	2.576/3	2.577/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	内面黒化、内面磨石、外面磨石	355	
		土師器	高弁	12.0	—	—	2.576/3	2.577/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	内面黒化、六山ガタナリ食	347	
		土師器	高弁	15.7	—	19.1	2.577/3	2.577/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	内面黒化、外面磨石	368	
		土師器	高弁	18.0	—	—	2.576/3	2.576/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	内面黒化、内面磨石、外面磨石	374	
		n.18 第23層	埋穴遺物	土師器	高弁	12.0	—	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	不明	不明	不明	内面黒化、外面磨石	423
				土師器	高弁	12.0	—	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	432
				土師器	高弁	13.0	—	—	2.576/3	2.576/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	356
土師器	高弁			12.0	—	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	内面黒化、口縁部打ち欠き、外面磨石、六山ガタナリ食	425		
土師器	高弁			—	3.0	—	2.576/3	2.577/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外面磨石	436		
土師器	高弁			—	—	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外面磨石	422		
土師器	高弁			13.0	1.3	28.3	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外面磨石	371		
n.19 第24層	埋穴遺物	土師器	高弁	—	—	—	2.576/3	2.576/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	内面黒化、60土師一割片?	373		
		土師器	高弁	—	12.0	—	2.576/3	2.576/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外面磨石、60土師一割片?	372		
		土師器	高弁	12.0	—	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	342		
		土師器	高弁	—	8.9	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外面黒化、口縁部打ち欠き、外面磨石、口縁部黒化	429		
		土師器	高弁	—	4.8	—	2.577/3	2.576/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外面黒化	363		
		土師器	高弁	—	8.8	—	2.576/3	2.576/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	313		
		n.20 第25層	埋穴遺物	土師器	高弁	13.6	—	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	内面黒化	430
				土師器	高弁	16.5	—	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外面磨石	437
				土師器	高弁	12.0	—	—	2.576/3	2.576/6	やや良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	367
				土師器	高弁	14.0	—	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	340
土師器	高弁			—	16.0	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	内面黒化	375		
土師器	高弁			—	16.0	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	351		
土師器	高弁			—	16.0	—	2.576/3	2.576/6	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	352		
n.21 第26層	埋穴遺物	土師器	高弁	7.7	2.4	1.9	—	—	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	538		
		土師器	高弁	7.7	2.4	1.9	—	—	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	539		
		土師器	高弁	7.7	2.4	1.9	—	—	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	538		
		土師器	高弁	7.7	2.4	1.9	—	—	良好	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	—	539		

発跡土: A: 宮崎小石 B: 長石・石英 C: 輝石・角閃石 D: 雲母 E: 黒炭

第 11 表 出土土器観察表③

調査年	遺構	層位	位置 (m)			形 状		構成	装 飾				備 考	実測 番号					
			西端	東端	長さ	外 形	内 面		外 形	内 面	文 様	色							
a. 25 第 29 層	74	土製品	0.0	2.2	1.4	12.11・黄緑	外 面	—	良好	ナゲ	—	1	1	—	—	半分欠損	348		
			(長)	(幅)	(厚)	1937.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
		土製品	2.6	2.1	1.6	黄褐色	外 面	—	良好	ナゲ	—	—	1	—	—			—	—
			(長)	(幅)	(厚)	1937.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—			—	
		土製品	6.3	2.3	2.1	12.11・黄緑	外 面	—	良好	ナゲ	—	—	1	—	—			—	—
(長)	(幅)		(厚)	1937.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
75	土製品	2.5	2.6	2.0	—	外 面	—	良好	ナゲ	—	2	1	—	—	—	—	342		
		(長)	(幅)	(厚)	2.337.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
	土製品	7.1	1.9	1.8	黄褐色	外 面	—	良好	ナゲ	—	—	1	—	—	—			—	
		(長)	(幅)	(厚)	1937.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
	土製品	5.1	2.6	1.9	西黄緑	外 面	—	良好	ナゲ	—	—	1	—	—	—			—	
(長)		(幅)	(厚)	1937.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
76	土製品	7.1	2.2	1.7	12.11・黄緑	外 面	—	良好	筒オサス、 ナゲ	—	—	1	—	—	—	—	—	346	
		(長)	(幅)	(厚)	2.337.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
	土製品	7.5	2.4	1.8	—	外 面	—	良好	筒オサス、 ナゲ	—	—	1	—	—	—	—			
		(長)	(幅)	(厚)	3337.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
	土製品	7.7	2.1	1.7	—	外 面	—	良好	筒オサス、 ナゲ	—	—	1	—	—	—	—			
(長)		(幅)	(厚)	3337.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
77	土製品	7.8	2.1	1.8	—	外 面	—	良好	筒オサス、 ナゲ	—	—	1	—	—	—	—	—	348	
		(長)	(幅)	(厚)	2.337.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
	土製品	7.8	2.3	1.9	黄褐色	外 面	—	良好	ナゲ	—	2	2	—	—	—	—			
		(長)	(幅)	(厚)	1937.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
	土製品	8.1	2.0	1.9	—	外 面	—	良好	ナゲ	—	4	—	—	—	—	—			
(長)		(幅)	(厚)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
b. 21 第 24 層	88	土製品	13.2	5.0	10.6	明赤褐色	明赤褐色	良好	筒オサス	筒オサス、 工具ナゲ	—	—	—	—	—	—	内外面施文、底面 に朱色塗抹あり	809	
			(長)	(幅)	(厚)	2.333.6	3333.6	—	—	—	—	—	—	—	—				
	91	土製品	11.6	5.0	6.5	12.11・黄	12.11・黄	良好	ナゲ	ナゲ	4	1	1	—	—	—	底面施文あり	84	
			(長)	(幅)	(厚)	2.333.3	2.333.4	—	—	—	—	—	—	—	—				
	92	土製品	11.4	3.6	8.8	黄緑	黄緑	良好	ナゲ	筒オサス、 ナゲ、ヒゲ	—	1	1	—	—	—	内外面施文、底面 に朱色塗抹あり	83	
(長)			(幅)	(厚)	2.337.3	2.337.6	—	—	—	—	—	—	—	—					
93	土製品	13.6	—	—	明赤褐色	明赤褐色	良好	ナゲ、ヒゲ	ナゲ	—	1	1	—	—	—	—	82		
		(長)	(幅)	(厚)	3337.3	3333.3	—	—	—	—	—	—	—	—					
94	土製品	13.7	9.3	6.0	—	—	良好	手折ハケ ズリ、ヒゲ	ココナゲ、 ヒゲナゲ	—	1	1	—	—	—	底面へり形有、 底面有、底面 に朱色塗抹あり	72		
		(長)	(幅)	(厚)	2.336.3	2.336.3	—	—	—	—	—	—	—	—					
95	土製品	13.7	—	—	明赤褐色	明赤褐色	良好	ココナゲ	ココナゲ、 ナゲ	—	—	—	—	—	—	—	18		
		(長)	(幅)	(厚)	2.333.5	2.333.5	—	—	—	—	—	—	—	—					
96	土製品	13.7	—	—	明褐色	12.11・黄	良好	ココナゲ	ココナゲ、 ヒゲナゲ	—	—	—	—	—	—	—	31		
		(長)	(幅)	(厚)	2.337.2	1933.6	—	—	—	—	—	—	—	—					
97	土製品	13.8	—	—	—	12.11・黄緑	良好	ナゲ	ナゲ	2	1	—	—	—	—	内外面施文、底面 に朱色塗抹あり	306		
		(長)	(幅)	(厚)	2.336.6	1937.1	—	—	—	—	—	—	—	—					
98	土製品	13.7	16.4	3.4	—	12.11・黄	良好	ナゲ	ナゲ	2	2	—	—	—	—	内外面施文あり	97		
		(長)	(幅)	(厚)	3336.3	2.333.4	—	—	—	—	—	—	—	—					
99	土製品	13.7	—	—	明赤褐色	明赤褐色	良好	ナゲ	ナゲ	2	—	—	—	—	—	内外面施文	14		
		(長)	(幅)	(厚)	2.333.5	3333.5	—	—	—	—	—	—	—	—					
100	土製品	13.8	—	—	12.11・黄	12.11・黄	良好	ココナゲ、 ナゲ	筒オサス、 ココナゲ、 ナゲ	—	—	—	—	—	—	外面施文あり	65		
		(長)	(幅)	(厚)	2.333.3	2.333.4	—	—	—	—	—	—	—	—					
101	土製品	12.1	—	—	—	—	良好	工具ナゲ	工具ナゲ	4	1	2	—	—	—	内外面施文	22		
		(長)	(幅)	(厚)	2.336.3	3336.3	—	—	—	—	—	—	—	—					
102	土製品	14.2	2.8	7.4	—	—	良好	ナゲ	ナゲ	—	1	—	—	—	—	—	8		
		(長)	(幅)	(厚)	3336.3	3336.3	—	—	—	—	—	—	—	—					
103	土製品	—	8.9	—	—	—	良好	筒オサス、 ナゲ	筒オサス、 ナゲ	—	—	1	1	—	—	内外面施文、外 面施文あり	91		
		(長)	(幅)	(厚)	3337.3	3336.3	—	—	—	—	—	—	—	—					
104	土製品	—	17.8	—	12.11・黄	12.11・黄緑	良好	ココナゲ	筒オサス、 ナゲ	2	2	—	—	—	—	内外面施文ありし り	81		
		(長)	(幅)	(厚)	2.333.4	1933.3	—	—	—	—	—	—	—	—					
105	土製品	—	31.9	—	—	—	良好	筒オサス、 工具ナゲ、 ナゲ	ナゲ、ナゲ	—	1	1	—	—	—	内外面施文、底 面に朱色塗抹あり	77		
		(長)	(幅)	(厚)	2.337.3	3336.3	—	—	—	—	—	—	—	—					
b. 26 第 20 層	106	土製品	13.1	—	—	—	12.11・黄緑	良好	ココナゲ	ココナゲ	3	—	—	—	—	—	内面施文あり	56	
			(長)	(幅)	(厚)	2.333.6	1933.4	—	—	—	—	—	—	—	—				
	107	土製品	13.4	—	—	—	—	良好	工具ナゲ	工具ナゲ、 ナゲ	6	1	—	—	—	—	—	96	
			(長)	(幅)	(厚)	3337.2	3336.3	—	—	—	—	—	—	—	—				
	108	土製品	13.6	—	20.8	明赤褐色	—	良好	工具ナゲ	工具ナゲ、 ココナゲ	3	1	1	—	—	—	内外面施文、内 面施文あり、外面 施文あり	3	
(長)			(幅)	(厚)	1933.5	2.333.5	—	—	—	—	—	—	—	—					
109	土製品	13.8	2.1	—	—	—	良好	ココナゲ	ココナゲ、 工具ナゲ	4	3	—	—	—	—	内外面施文	12		
		(長)	(幅)	(厚)	3336.3	2.333.6	—	—	—	—	—	—	—	—					
110	土製品	12.1	6.1	—	12.11・黄	12.11・黄	良好	ナゲ	ナゲ	2	1	—	—	—	—	外面施文あり、内 面施文あり	78		
		(長)	(幅)	(厚)	2.333.4	2.333.2	—	—	—	—	—	—	—	—					

胎土 A: 古崎小石 B: 長石・石英 C: 輝石・角閃石 D: 雲母 E: 黒電

第12表 出土土器観察表④

調査年度	調査地	遺構	種別	数量(1/2)単位			形 態		備 考	調査番号								
				数量	片数	破片	内 面	外 面										
平成29年度	聖天塚跡 25	111	土師器	18.1	—	—	—	—	良好	ナブ	ナブ	4	2	1	—	内外面観察	20	
			甕	—	—	—	2.5386/6	2.5386/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		112	土師器	19.2	—	—	—	—	—	良好	ナブ	ナブ	4	2	2	—	内外面観察	41
			甕	—	—	—	2.5386/6	2.5387/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		113	土師器	21.4	—	—	—	—	—	良好	ココナブ、 工具ナブ	ココナブ、 工具ナブ	3	1	—	—	—	79
			甕	—	—	—	2.5386/6	2.5385/4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		114	土師器	22.5	—	—	—	—	—	良好	筒ナブ、 工具ナブ、 ナブ	筒ナブ、 ナブ	4	1	1	—	—	95
			甕	—	—	—	2.5386/6	2.5387/9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		115	土師器	26.0	—	—	—	—	—	良好	ココナブ、 ナブ	ココナブ、 ナブ	5	2	2	—	内外面観察	69
			甕	—	—	—	2.5386/6	2.5387/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
平成30年度	聖天塚跡 25	116	土師器	33.3	—	—	明赤焼	黄焼	良好	ココナブ、 工具ナブ	筒ナブ、 ココナブ	3	1	1	—	内外面観察、内 外面残存	7	
			甕	—	—	—	2.5385/9	2.5385/9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		117	土師器	34.2	—	—	2.5385/4	2.5385/4	—	良好	筒ナブ、 工具ナブ、 ナブ	筒ナブ、 ナブ	3	—	—	—	内外面観察	27
			甕	—	—	—	2.5385/4	2.5385/4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		118	土師器	37.4	—	—	2.5385/4	2.5385/4	—	良好	ココナブ、 工具ナブ	ココナブ、 工具ナブ	3	1	1	—	—	89
			甕	—	—	—	2.5386/4	2.5385/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		119	土師器	26.4	6.4	18.5	—	—	—	良好	筒ナブ、 工具ナブ	筒ナブ、 工具ナブ	5	2	1	—	—	61
			甕	—	—	—	2.5386/6	2.5386/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		120	土師器	—	—	—	2.5385/4	2.5386/6	—	良好	ナブ	筒ナブ、 ナブ	—	2	1	—	—	1
			甕	35.7	—	—	2.5386/4	2.5386/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
121	土師器	28.0	—	—	2.5385/4	2.5385/4	—	良好	ココナブ、 工具ナブ	ココナブ、 工具ナブ	4	—	—	—	—	54		
	甕	—	—	—	2.5386/4	2.5386/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
122	土師器	19.4	—	—	明赤焼	明赤焼	—	良好	ココナブ	ココナブ	—	1	1	—	—	127		
	甕	—	—	—	2.5385/6	2.5385/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
123	土師器	—	—	—	明赤焼	明赤焼	—	良好	ココナブ	ココナブ	2	1	2	—	—	19		
	甕	—	—	—	2.5386/6	2.5387/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
124	土師器	—	2.7	—	—	—	—	良好	ナブ	ナブ	—	1	—	—	内外面観察、内 外面残存	29		
	甕	—	—	—	2.5387/9	2.5386/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
125	土師器	—	—	—	2.5385/4	2.5385/4	—	良好	筒ナブ、 ナブ	筒ナブ、 ナブ	3	2	2	—	—	56		
	甕	—	—	—	2.5387/4	2.5386/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
126	土師器	—	—	—	—	—	—	良好	工具ナブ	筒ナブ、 ナブ	3	2	2	—	—	125		
	甕	—	—	—	2.5386/6	2.5386/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
平成30年度	聖天塚跡 25	127	土師器	—	7.3	—	明赤焼	黄焼	良好	筒ナブ、 工具ナブ、 ナブ	筒ナブ、 工具ナブ	3	1	—	—	内面磨損、丸 山ナブミナブ	94	
			甕	—	—	—	2.5387/6	2.5386/6	—	—	—	—	—	—	—	—		
		128	土師器	—	6.4	—	—	—	—	良好	ナブ	工具ナブ	—	2	1	—	—	64
			甕	—	—	—	2.5386/6	2.5385/1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		129	土師器	—	—	—	—	—	—	良好	工具ナブ	筒ナブ、 工具ナブ	4	2	2	—	内外面観察、内 外面残存	17
			甕	—	—	—	2.5387/6	2.5387/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		130	土師器	—	0.6	—	—	—	—	良好	工具ナブ	筒ナブ、 工具ナブ	3	1	1	—	内外面観察	30
			甕	—	—	—	2.5386/6	2.5387/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		131	土師器	—	0.8	—	2.5385/4	2.5385/4	—	良好	工具ナブ、 ナブ	筒ナブ、 ナブ	3	—	2	—	—	129
			甕	—	—	—	2.5386/4	2.5385/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
132	土師器	—	—	—	—	—	—	良好	筒ナブ、 ナブ	筒ナブ、 ナブ	2	2	1	—	内外面観察、内 外面残存	68		
	甕	—	—	—	2.5386/6	2.5386/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
133	土師器	—	—	—	—	—	—	良好	筒ナブ	筒ナブ	—	—	—	—	—	34		
	甕	19.1	—	5.6	2.5385/3	2.5385/1	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
134	土師器	—	—	—	黄焼	黄焼	—	良好	筒ナブ	筒ナブ	—	2	—	—	内面に赤い顔料 付着、4線付打 りナブ	99		
	甕	16.0	0.6	5.8	2.5386/2	2.5386/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
135	土師器	—	—	—	黄焼	黄焼	—	良好	筒ナブ	筒ナブ	—	—	—	—	内面に磨損状文、 内面に小凸	55		
	甕	—	—	—	2.5385/3	2.5385/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
136	土師器	—	—	—	2.5385/4	2.5385/4	—	中々不良	ナブ	ナブ	1	—	—	—	—	13		
	甕	—	—	—	2.5386/4	2.5386/4	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
平成30年度	聖天塚跡 25	131	土師器	33.3	—	—	—	—	良好	ココナブ	ココナブ、 ナブ、 ココナブ	3	—	—	—	内外面観察、内 外面残存	261	
			甕	—	—	—	2.5387/6	2.5386/6	—	—	—	—	—	—	—	—		
		132	土師器	21.3	—	—	2.5385/3	2.5386/4	—	良好	筒ナブ、 工具ナブ	筒ナブ、 工具ナブ	6	—	—	—	—	280
			甕	—	—	—	2.5385/3	2.5386/4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		133	土師器	28.4	—	—	2.5385/4	2.5385/4	—	良好	工具ナブ	工具ナブ	3	1	1	—	内外面観察	261
			甕	—	—	—	2.5385/4	2.5385/4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		134	土師器	27.0	—	—	2.5385/4	2.5387/7	—	良好	工具ナブ	工具ナブ	3	—	—	—	内外面観察	470
			甕	—	—	—	2.5385/3	2.5387/7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		135	土師器	19.4	—	—	明赤焼	2.5385/4	—	良好	ココナブ、 工具ナブ	ココナブ、 ナブ	4	—	—	—	内外面観察	179
			甕	—	—	—	2.5385/6	2.5385/4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
平成30年度	聖天塚跡 28	136	土師器	12.4	—	—	灰白	2.5385/4	良好	ココナブ、 ココナブ	ココナブ、 ココナブ	—	1	—	—	—	251	
			甕	—	—	—	2.5385/2	2.5385/1	—	—	—	—	—	—	—	—		
		137	土師器	11.4	0.4	5.3	2.5385/4	2.5385/3	—	良好	手付一ツク ナブ、 ココナブ	ココナブ、 ココナブ	—	—	—	—	横かた山ナブ ミナブ	310
			甕	—	—	—	2.5386/4	2.5386/3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
138	土師器	15.0	—	14.0	—	—	—	良好	ナブ、 ココナブ	ナブ、 ココナブ	—	1	1	—	—	横筋、丸山ナブ ミナブ	182	
	甕	—	—	—	2.5386/6	2.5386/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—			

塗料土 A: 宮崎小石 B: 長石・石英 C: 輝石・角閃石 D: 雲母 E: 黒炭

第13表 出土土器観察表⑤

調査年	遺構番号	遺構種類	層位	位置 (1) 掘り			形 状		備 考	実 測 寸 法					
				北端	南端	長さ	内 径	外 径							
n.33 溝状遺構	149	土師器	灰層	—	—	5.3	卵形	—	良好	ナブ、ヒゲナブ、ヒゲナブ — 1 1 1 1 1 1	内外面磨光、内面 ヤスリナシ	206			
		土師器	灰	15.6	—	—	2.555/6	2.556/6	—	—	—	—			
	土師器	灰	15.6	5.0	6.0	2.556/6	1077/6	卵形	良好	胎オサエ、 ヨコナブ、 ナブ	胎オサエ、 ナブ	内外面磨光	142		
	151	土師器	灰	15.6	—	—	卵形	—	良好	ナブ、ヒゲナブ	ナブ	内外面磨光、内面 ヤスリナシ	191		
	152	土師器	灰	16.1	—	—	—	—	良好	ナブ	ナブ	内外面磨光	189		
	153	土師器	灰	16.1	—	5.9	12.51/4	12.51/4	—	良好	ヒゲナブ、 ヒゲナブ	胎オサエ、 ヒゲナブ	内外面磨光、内面 ハシ型有	147	
	154	土師器	灰	17.2	0.0	6.1	—	—	—	良好	胎オサエ、 工具ナブ、 ナブ	胎オサエ、 ナブ	内外面磨光、内外 面厚打	150	
	155	土師器	灰	16.0	3.1	10.5	—	—	—	良好	ヒゲナブ	ヒゲナブ	内外面厚打、内面 ヤスリナシ	249	
	156	土師器	灰	15.7	0.0	10.5	—	—	—	良好	ナブ	胎オサエ、 ナブ、ヒゲナブ	内外面磨光、内面 ヤスリナシ	223	
	157	土師器	灰	—	11.8	—	12.51/4	1077/4	卵形	良好	胎オサエ、 ヒゲナブ	ナブ、ヒゲナブ	内外面磨光、内 面厚打、内面 ヤスリナシ	205	
	158	土師器	灰	—	0.0	—	—	—	—	良好	ナブ、ヒゲナブ	ナブ	内外面磨光、内 面厚打	154	
	159	土師器	灰	—	01.21	—	1076/6	2.557/6	卵形	良好	卵形ナブ、 工具ナブ	工具ナブ、 ヒゲナブ	内面磨光	156	
	160	土師器	灰	—	11.7	—	—	—	—	良好	胎オサエ、 工具ナブ	胎オサエ、 ナブ	内外面磨光	222	
	n.33 第40段	161	土師器	灰	21.0	1.6	16.2	12.51/4	12.51/4	良好	ヨコナブ、 工具ナブ	ヨコナブ、 工具ナブ	内外面磨光、内 面厚打	475	
		162	土師器	灰	—	—	—	2.557/6	1076/3	中々良好	工具ナブ	工具ナブ	内外面磨光	152	
		163	土師器	灰	21.2	—	—	—	—	中々良好	胎オサエ後 工具ナブ	ヨコナブ、 工具ナブ	内外面磨光	474	
		164	土師器	灰	20.1	—	—	12.51/4	1076/3	良好	工具ナブ、 ナブ	工具ナブ	内外面厚打	473	
		165	土師器	灰	21.1	—	—	1077/6	2.557/6	良好	胎オサエ、 工具ナブ、 ナブ	胎オサエ、 工具ナブ、 ナブ	内外面厚打	207	
		166	土師器	灰	16.2	—	—	2.557/6	2.557/6	良好	胎オサエ、 工具ナブ	工具ナブ、 ヒゲナブ	内外面厚打	181	
		n.33 第41段	167	土師器	灰	17.1	—	—	12.51/4	12.51/4	良好	ヨコナブ、 工具ナブ	ヨコナブ、 工具ナブ	内外面厚打	471
			168	土師器	灰	19.0	—	—	2.557/6	2.557/6	良好	胎オサエ、 工具ナブ、 ナブ	胎オサエ、 ナブ	内外面厚打	184
	169		土師器	灰	21.6	—	—	12.51/4	12.51/4	良好	胎オサエ、 工具ナブ、 ナブ	胎オサエ、 工具ナブ、 ナブ	内外面厚打	223	
	170		土師器	灰	22.0	—	—	2.556/6	1077/4	良好	胎オサエ、 工具ナブ	胎オサエ、 ナブ	内外面厚打	190	
	171		土師器	灰	15.5	3.3	20.6	2.557/6	2.556/6	良好	胎オサエ、 工具ナブ、 ナブ	胎オサエ、 ナブ	内外面磨光、内 面厚打	230	
	n.33 第42段	172	土師器	灰	12.1	—	—	—	—	良好	ヨコナブ、 ナブ後工具 ナブ	ヨコナブ、 工具ナブ	内外面厚打	163	
		173	土師器	灰	13.1	—	—	2.556/6	2.557/4	良好	ヨコナブ、 工具ナブ	ヨコナブ、 工具ナブ	内外面厚打	175	
		174	土師器	灰	—	—	—	12.51/4	1076/4	中々良好	工具ナブ	工具ナブ	内外面磨光	159	
		175	土師器	灰	—	3.6	—	卵形	1076/4	良好	胎オサエ、 工具ナブ、 ナブ	胎オサエ、 ナブ	内外面磨光、内 面厚打	235	
		176	土師器	灰	—	—	—	2.557/6	1077/4	良好	胎オサエ、 工具ナブ	胎オサエ、 工具ナブ	内外面磨光、内 面厚打	157	
		177	土師器	灰	—	—	—	12.51/4	1076/4	中々良好	工具ナブ、 ナブ	工具ナブ	内外面磨光、内 面厚打	144	
		178	土師器	灰	—	—	—	2.556/6	2.557/3	良好	工具ナブ	工具ナブ	内外面磨光、内 面厚打	151	
		179	土師器	灰	—	—	—	2.557/6	2.557/6	良好	工具ナブ、 ナブ	工具ナブ	内外面磨光	171	
180		土師器	灰	—	3.0	—	12.51/4	12.51/4	良好	工具ナブ	胎オサエ、 ナブ	内外面厚打	153		
n.33 第43段		181	土師器	灰	15.2	—	—	12.51/4	12.51/4	良好	ヨコナブ、 工具ナブ	ヨコナブ、 ナブ	内外面磨光	228	
	182	土師器	灰	15.6	—	—	12.51/4	12.51/4	良好	ヨコナブ、 工具ナブ	ヨコナブ、 工具ナブ	内外面磨光	166		

胎土: A: 吉崎小石・長石・石英 C: 輝石・角閃石 D: 雲母 E: 黒炭



第15表 出土土器観察表⑦

発掘年度	溝番号	遺構	種別	数量(個/片/塊)			色		形状	調整			胎土(土・陶・灰)	備考	実測番号	
				口部	底面	縁部	外	内		高	内面	土				陶
2017 第79区	224	溝状遺構 26	灰褐色	11.0	—	—	赤褐色	灰	貝釘	同転ナブ	同転ナブ	—	—	—	308	
			赤	—	—	—	2.915/1	915/1	—	—	—	—	—	—	—	
			灰褐色	—	14.4	—	—	灰褐色	灰褐色	貝釘	同転ナブ	同転ナブ	—	土	—	底面工肌残存、土質測の可能性有
			赤	—	—	—	10925/2	10916/2	—	—	—	—	—	—	—	外面磨損状況、穿孔、透孔有
226	—	—	灰褐色	—	—	—	—	—	貝釘	ナブナ	ナブナ	—	—	—	307	
			赤褐色	—	—	—	2.916/1	10915/1	—	—	—	—	—	—	—	

胎土 A: 宮崎小石 B: 長石・石英 C: 輝石・角閃石 D: 雲母 E: 黒染

第16表 出土土器観察表

発掘年度	発掘番号	遺構等	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測番号
p.12 第14区	19 20	壺穴建物10-11	磁石	砂岩	17.9 12.8	7.9 3.7	5.3 3.8	960.0 220.0	全体的に被熱による変色	515 514
	p.21 第24区		86 87 89	壺穴建物22	磁石	砂岩	13.0	4.8	2.0	180.0
磁石	砂岩	14.7	5.6		4.1	428.0	—	—	—	517
磁石	滑石	0.6	0.6		0.3	0.1	—	—	—	415
p.29 第33区	137 138 139 140	壺穴建物25	磁石	砂岩	6.9	7.4	3.9	241.0	—	524
	磁石		砂岩	10.2	7.7	4.3	374.0	—	525	
	磁石		砂岩	12.9	5.3	3.3	498.0	—	526	
	磁石		砂岩	7.8	10.3	7.8	918.0	—	527	
p.38 第43区	185 186	壺穴建物28	有孔月板	滑石	1.8	2.0	0.2	1.0	一部欠損	528
	磁石		砂岩	11.4	4.5	2.4	161.0	—	528	
p.40 第45区	200 201	壺穴建物29	磁石	砂岩	12.4	6.2	5.0	495.0	—	531
	動物歯		滑石	3.1	(3.3)	1.7	15.8	—	530	
p.41 第69区	213 215 220	溝状遺構3	磁石	砂岩	7.1	6.6	4.7	294.0	一部磨行痕、被熱変色有	532
	溝状遺構5	磁石	砂岩	9.7	8.3	4.8	614.0	—	533	
	溝状遺構12	火打石	土懸	4.0	2.2	1.5	12.8	—	536	
p.42 第79区	227 228	溝状遺構26	磁石	尾跡山礫性岩	9.7	9.4	3.3	494.0	側面全体に、も磨行有	535
	磁石?		砂岩	9.1	5.5	3.1	147.0	—	534	

( ) の値は残存額を示す

第17表 出土鉄器観察表

区	発掘番号	遺構等	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測番号
p.21 第24区	90	壺穴建物24	鎌刀	29.8	3.4	1.3	220.0	柄材一部残存、裏角が平付有	535

( ) の値は残存額を示す

## 第IV章 まとめ

### 第1節 北中遺跡における古墳時代集落の変遷

今回の調査では、狭い調査区ながら多くの遺構が検出された（第71図）。検出された遺構の多くはこれまでの調査同様、古墳時代に位置付けられるものである。本節では、まず今次調査で確認された古墳時代建物の変遷を示す。そして、1次から3次調査における建物の変遷とあわせて、現状における北中遺跡の古墳時代集落の変遷を確認する。

主に出土遺物と切り合い関係、加えて建物の配置や軸方向を加味すると、今次調査で確認された堅穴建物、掘立柱建物の変遷は第18表のように考えられる。今次調査では古墳時代中期後葉から古墳時代終末期初頭にかけての遺構が確認されており、古墳時代後期の遺構がもっとも多い。後期の各小期ではいずれも掘立柱建物と堅穴建物が存在する。掘立柱建物は、TK10型式期以降、すべて総柱建物であり注目できる。また、堅穴建物規模は、時期によらず大型、小型のものが並存している状況である。

以上、今次調査で検出された古墳時代建物変遷の概略を示した。これに1から3次調査の調査成果をあわせて現状での古墳時代北中遺跡集落の変遷を確認しておきたい。

北中遺跡において古墳時代集落が形成されるのは、古墳時代中期中葉（TK216型式期）である。その後、中期後葉までは各調査区で堅穴建物が散見される程度である。中期末葉から後期初頭（TK47-MT15型式期）になると、堅穴建物の数が増加し、大型のものも見られるようになる。掘立柱建物もこの時期から存在する。2次、4次調査区に建物は集中し、1次調査区には存在しない。後期中頃（TK10-MT85型式期）も前段階と同様の状況で多くの建物が存在する。掘立柱建物はこの時期に総柱化する。後期中頃から末（TK43-TK209型式期）には建物の数は減少するものの、3次、4次調査区では前段階とほぼ同様の状況である。2次調査区は地下式横穴墓が構築され墓域化している。終末期初頭（TK217型式期）以降は建物は激減し、僅かに散見されるのみになる。4次調査区掘立柱建物16はこの時期に位置付けられるもので、総柱建物ではあるが規模が縮小している。古代以降も堅穴建物が散見されるが、ごく僅かに確認できる程度となる。ちなみに火処は集落形成時から地床炉が認められ、埋甕はTK10型式期以降、甕は僅かに遅れてMT85型式期以降確認できる。それ以降は3者が古代まで並存する状況である。

以上のように、これまでの調査成果から判断すれば、古墳時代北中遺跡の集落は古墳時代中期中葉から古代まで続く集落であるといえる。その最盛期は後期初頭から中頃で、この段階には大型の堅穴建物や総柱掘立柱建物が立ち並ぶ状況であった。後期中頃から末には一部が墓域化し、建物の数はやや減少する。終末期以降は急速に衰退しながらも、古代まで細々と集落は存続していく。

### 第2節 北中遺跡における古墳時代の鍛冶について

北中遺跡では、これまでの4次にわたる調査で、古墳時代の遺構から一定量の鉄滓やフイゴ羽口が出土した。しかし、本遺跡における具体的な鍛冶の様相についてはあまり言及されてこなかった。本節では、これまで本遺跡において確認された鍛冶関連遺構や遺物を概観し、古墳時代北中遺跡の鍛冶について現段階での見通しを示しておきたい。

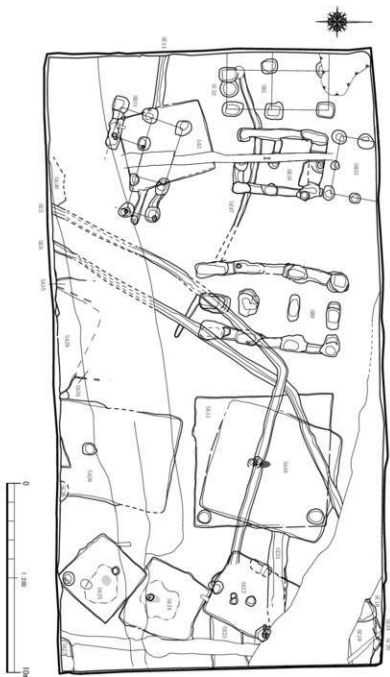
北中遺跡における鍛冶関連遺物には、鉄滓、フイゴ羽口、素材の可能性のある不明棒状鉄製品があり、鉄滓には梔形滓と判断できるものが一定量存在しているほか、金属加工具とみられる石器も認められる。これら鍛冶関連遺物はほとんど堅穴建物からの出土である。合計13軒から出土して

第18表 北中遺跡4次調査区建物変遷表

時期	古墳時代中期	古墳時代後期				古墳時代終末期
	TK23～47	MT15	TK10	MT85	TK43～TK209	TK217
遺構	SA22	SA24	SA25	SA2	SA10	SB16
		SA28	SA29	SA11	SA27	
		(SB33)	(SB1)	SB9	SB31	

※( )は軸方向からの推定による時期推定。他は出土遺物から。

第71図 北中遺跡4次調査区古墳時代主要遺構配置図 (S-1/200)





おり（註1）、時期的には5世紀末に位置付けられるもの3軒、6世紀に位置付けられるもの8軒、7世紀に位置付けられるもの1軒、8世紀に位置付けられるもの1軒である。そのほか、2次調査の1号Pitから鉄滓、フイゴ羽口が廃棄された状態で確認され、4次調査掘立柱建物1、9の柱掘方からも僅かに鉄滓が出土している。いずれも6世紀代の遺構である。

このような鍛冶関連遺物の出土状況に対して、鍛冶関連遺構については明確なものは確認されていない。しかし、1次調査竪穴状遺構2では床面から鉄滓が多く出土していること、2次調査のSA3では椀形滓、フイゴ羽口が出土し、床面には炭化物が広がっていたことなどから、当該遺構では鍛冶がおこなわれていた可能性が考慮される。また、鉄滓が出土した竪穴建物からは台石が出土する傾向も看取できる。

以上、これまでに北中遺跡において確認された鍛冶関連の遺物について示した。情報はきわめて限られた現状であるが、ここから現段階で考えうる古墳時代北中遺跡における鍛冶について検討してみたい。

まず、鍛冶のおこなわれた時期については、その開始が5世紀末まで遡るとみられる。また、集落の最盛期と同じ6世紀代に鍛冶関連の遺物も集中する。その後8世紀まで僅かだが鍛冶関連遺物が確認されるため、本遺跡では5世紀末以降継続的に鍛冶がおこなわれたことがわかる。鍛冶炉など明確な鍛冶関連遺構が未確認のため、炉や工房の形態は不明だが、上述の1次調査竪穴状遺構2などの状況や鍛冶関連遺物のほとんどが竪穴建物より出土する状況から、竪穴建物内での鍛冶がおこなわれていた可能性が高いと考えられる。しかし、鍛造剥片などの遺物は確認されていない。製鉄から鍛錬鍛冶にいたるとの段階の作業がおこなわれたかについては不明だが、椀形滓の存在から何らかの炉が存在したことは間違いない。また、素材の可能性がある不明棒状鉄製品も出土しており、少なくとも鍛錬鍛冶はおこなわれていたと推定される。近隣に所在し、時期もほぼ同じくする山崎上ノ原第1、2遺跡では、鉄滓の分析から砂鉄を原料とする製鉄から鍛錬鍛冶にいたる一連の工程がおこなわれていたことが明らかになっており、本遺跡でもそうした鍛冶がおこなわれていた可能性は十分ある。

### 第3節 宮崎市海岸部の古墳時代集落と北中遺跡

北中遺跡の所在する宮崎市街地周辺は、第I章で記述したとおり、沖積地、砂丘からなる微高地と旧河道からなる低地が入り組んだ複雑な地形を呈していたと考えられる。遺跡は、このうち微高地上に展開しており、特に沖積微高地縁辺部や砂丘上に多く認められる。

北中遺跡周辺の沖積微高地や砂丘上では、弥生時代前期から遺跡が認められる。しかし、弥生時代後期以降遺跡が激減し、前方後円墳の楨1号墳を除くと古墳時代中期初頭まではほぼ空白ともいえる状況となる。

この地域で再び集落が形成されるのは、古墳時代中期中葉以降であり、主要な遺跡に北中遺跡、大町遺跡、浄土江遺跡がある。いずれも市街地周辺の沖積微高地上に位置する遺跡であり、多くの竪穴建物が確認されている。

古墳時代中期中葉には、北中遺跡で竪穴建物が確認されており（註2）、沖積微高地上において集落が形成され始める。後期初頭から後期中頃にかけて、北中遺跡では竪穴建物が増加し、集落の最盛期を迎える。後期前半には大町遺跡、浄土江遺跡において竪穴建物が確認されており、集落の形成が開始される。後期後半になると北中遺跡では竪穴建物がやや減少するが、それに入れ替わるように大町遺跡で集落の最盛期を迎える。大町遺跡で確認された竪穴建物はそのほとんどが当該時

期から終末期初頭までのものである。終末期後半になると、北中遺跡、大町遺跡では堅穴建物の数が激減するが、浄土江遺跡では集落形成の最盛期を向かえ古代へと続いていく。

各遺跡とも集落全体を調査していないため、各遺跡周辺に現在確認されている時期以外の遺構が広がっている可能性も依然残されているが、以上のような現状を単純に評価すれば、古墳時代中期中葉以降の宮崎市街地周辺の沖積微高地では、時期ごとに中心的な位置を占める集落の位置が移動していると考えられる。その中において北中遺跡は、沖積微高地での集落形成の端緒となった遺跡であると位置付けることが可能であろう。また、今次調査区で確認された総柱の掘立柱建物群を中心として多くの堅穴建物が展開する状況から周辺の拠点集落的な位置を占めていたものとも考えられる。

今次調査で出土した宮崎平野部初となる有孔円板や、第2次調査6号地地下横穴墓出土のトンボ玉、今次調査堅穴建物24、土坑18から出土した把手付鉢の存在から、北中遺跡での集落形成の背景には、ここに居住する人々の広域にわたる交流を想定することができる。こうした広域交流を背景として、鉄器生産に代表される新技術を保持した集団によって北中遺跡の古墳時代集落は形成されたものと考えたい。宮崎平野部では、宮崎市山崎上ノ原第1,2遺跡、宮ヶ迫遺跡、新富町上園遺跡、西都市宮ノ東遺跡など北中遺跡と同様の状況を呈する集落遺跡が各地で確認されているが、これらの集落の形成には、和田理啓が想定する（宮崎県埋蔵文化財センター2013）ような計画村落的な性格を含めた検討が必要であろう。

#### 【註】

- 註1 金属加工工具とみられる石器については、必ずしも用途が明確でないため、その出土遺構はここに加えていない。
- 註2 北中遺跡1次調査堅穴建物1は古墳時代前期末～中期初頭と報告されているが、出土土器を見ると中期中葉以降に位置付けられるものと考えられる。

#### 【主要参考文献】

- 宮崎県埋蔵文化財センター編 2013「山崎上ノ原第1遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第224集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 宮崎市教育委員会編 1981「浄土江遺跡」宮崎市文化財調査報告書第6集 宮崎市教育委員会
- 宮崎市教育委員会編 1993「浄土江遺跡Ⅱ」宮崎市文化財調査報告書第25集 宮崎市教育委員会
- 宮崎市教育委員会編 1998「大町遺跡」宮崎市文化財調査報告書第33集 宮崎市教育委員会
- 宮崎市教育委員会編 1999「北中遺跡」宮崎市文化財調査報告書第38集 宮崎市教育委員会
- 宮崎市教育委員会編 2002「北中遺跡Ⅱ」宮崎市文化財調査報告書第51集 宮崎市教育委員会
- 宮崎市教育委員会編 2003「北中遺跡Ⅲ」宮崎市文化財調査報告書第56集 宮崎市教育委員会

# 写真図版



調査風景



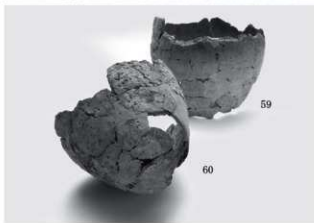
上：竪穴建物2全景（南から）、  
中左：同遺物出土状況（北から）  
中右：同出土土器、  
下：同出土石器、鉄器



上：竪穴建物 10、11 全景（南西から）、下左上：竪穴建物 10 土器埋設伊断面（西から）  
 下左下：竪穴建物 11 伊断面（西から）、下右：竪穴建物 10 遺物出土状況（北東から）



豎穴建物 10、11 出土遺物



上：竪穴建物 22 全景（東から）  
 中左：同西壁抉り部分（南東から）  
 中右：同土器埋設炉調査状況（西から）  
 下：土器埋設炉炉体土器